

(別紙様式1)

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立峰山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 就学前から中学校卒業までの10年間を見通した一貫性のある教育を推進する。 2 授業力の向上に全力を尽くす。 3 子どもたちが笑顔で楽しい学校生活が過ごせるよう全力を尽くす。 4 地域に貢献し地域とともにある学校づくりに全力を尽くす。		<ul style="list-style-type: none"><li>○教職員の時間と労力を授業づくりに集中させ、学力の充実・向上と豊かな人間性をはぐくむ教育活動の工夫・改善を進めることができた。</li><li>○エジソン学級設置を契機に特別な支援を必要とする児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導を充実させることができた。</li><li>△互いを尊重し、望ましい人間関係をはぐくむ学級経営を充実させる必要がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>1 ことばの力を高める授業を工夫し、「授業が楽しい」と感じる子を限りなく増やす。</li><li>2 児童が安心して学べる学級経営を充実させ、「学校が楽しい」と感じる子を限りなく増やす。</li><li>3 教育的ニーズに応じた特別支援教育を進める。</li><li>4 地域社会の一員として地域に貢献しようとする子を限りなく増やす。</li></ul>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"><li>○学習意欲を高め、思考力、判断力、表現力をはぐくむ魅力ある学習指導を行い、学習内容を確実に定着させる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○保護者の協力も得ながら「授業づくり・家庭学習習慣強化月間」を各学期に約3~4週間、年間約3ヶ月間設定し集中的に取り組む。</li><li>○教材研究に十分な時間をかけ、指導目標と学習のめあて、評価計画を事前に準備する。</li><li>○基礎的・基本的な学力を定着させるため、チャレンジタイム、放課後補習の指導体制を整える。</li><li>○学習に関する児童アンケートをもとに検証し、指導方法の改善・開発を進める。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○児童アンケートでは、先生はわかるまで、できるまで教えてくれる(99%)、授業はわかりやすい(98%)と肯定的回答の割合が極めて高い。</li><li>○児童アンケートの学習に関する質問8項目すべてにおいて、肯定的回答が3年連続で上昇し最高値となっている。「意見を発表する」「わからないところは先生に聞く」等、学習への積極性を問う項目では上昇傾向が顕著である。</li><li>△勉強の時間が来るのが楽しい(76%)と感じる、知的好奇心と学習意欲の高い児童の割合を増やす。</li></ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"><li>○自ら考え判断して生活上の諸問題を解決する力を培うとともに、人を思いやり礼儀を重んじる心をはぐくむ。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○自らの意志で主体的に問題を解決する態度を育てるため、共感的に理解したり自己決定をしたりする場を増やした指導を行う。</li><li>○相手の立場に立つなど立場をえてものごとを考える力をはぐくむため、学習活動において、視点をえて考える学習活動の時間を増やす。</li><li>○学校不適応や不登校を起こさせないため、早期発見、早期対応と情報共有に努める。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○児童アンケートでは、学校は楽しい(98%)と肯定的回答が3年連続で上昇し最高値となっている。</li><li>○児童アンケートでは、担任のほかにも気軽に相談できる先生がいる(92%)と肯定的な回答の割合が高い。</li><li>△問題の早期発見・早期対応、児童にとって安心感のある場所の提供にとどまらず、学校不適応の未然防止に力点を移した主体的で協同の学習活動のある授業づくりをさらに進める。</li></ul>

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽しく体を動かす習慣を身に付けさせながら、体力・運動能力の向上を図るとともに、早寝早起きなど基本的な生活習慣を確立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○取組期間を設けて、朝マラソン、鉄棒、縄跳びなど、朝の体力づくりに取り組む。</li> <li>○家庭との連携を図りながら、特に早寝早起きができるようにするための点検活動を行い、生活を改善する取組を強める。</li> <li>○新型感染症等リスクが相対的に高まっていることから、予防対策の基本である手洗いを生活習慣として定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体力づくりの学級での取組目標を設定することにより目標を持って体力づくりに取り組む児童が増えた。</li> <li>○新型感染症等の予防の観点から手洗いを習慣化したことによりインフルエンザ罹患率は3%未満にとどめることができた。</li> <li>△早寝早起きにはなお課題あり家庭と連携した生活習慣を確立する取組を充実する。</li> </ul>
小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保・幼、小、中学校の一層の連携を進め小学校への入学や中学校への進学の不安を限りなく減らす。</li> <li>○授業における生徒指導を充実させ、学びの場をとおして子どもを育てる。</li> <li>○小中一貫教育モデルカリキュラムを検証する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○京丹後市小中一貫教育モデルカリキュラム、峰山学園の「自己肯定感を高め『わかる』『できる』授業を推進するために小・中学校で共通確認する指導の視点」を活用し、小中9年間一貫性のある言語活動や学び方の指導を行う。</li> <li>○自己決定の場があり、共感的な人間関係をはぐくみ、自己存在感のある授業づくりを行い、その指導方法を学園全体で交流・検証する。</li> <li>○特に6年生については中学校の授業や生活を体験する取組を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「わかる・できる」にとどまらず思考力、判断力、表現力など質の高い学力を育成するための教育評価を改善する取組を進めることで小中一貫教育の推進に貢献した。</li> <li>○中学校での授業体験、合唱祭への参加、部活動体験等の中学校生活体験活動や交流活動を行うことで、6年生児童の中学校生活への期待が大きく膨らんだ。</li> <li>△小中一貫教育モデルカリキュラムの趣旨を生かし、引き続き「ことばの力」をはぐくむ指導を充実させる。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の教育的ニーズに応じたすべての子どもを支援する教育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○通常の学級に在籍する特別な支援を必要としている児童に対して、過剰な刺激を減らし整然とした学習環境、教室環境を整えるとともに、特性に配慮した指導を進める。</li> <li>○特別な支援を必要とする児童一人一人の教育的ニーズに対応するため、保護者との定期的な懇談の場をもち、保護者との合意形成を図りながら支援を進める。</li> <li>○得意分野を伸ばす指導を積極的に取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事における集団活動では、すべての児童が参加しやすい行事設計になっており、特別な支援を必要としている児童も含め、充実感、連帯感のある取組ができた。</li> <li>○保護者と定期的に懇談し合意形成を図りながらニーズに応じた特別な支援を要する教育を進めることができた。</li> <li>△指導については、ルールを明確にした一斉指導を基本に、必要に応じて個別配慮、個別対応を工夫する。</li> </ul>
研修(資質向上の取組)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業研究を充実させ実践的指導力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○峰山学園の取組とリンクさせ、授業における生徒指導のあり方について実践的に研修する。</li> <li>○指導案を準備しない普段の授業から学び合う研修会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○峰山学園としての指導方法の工夫・改善を進めるため、学び方を視点にして授業づくりを進めることができた。</li> <li>△認識の力を高める授業づくりを引き続き推進し、普段の授業から検証する。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習意欲の高い児童を育成するため、ことばの力をはぐくみ学習能力を高める指導の工夫・改善に努める。</li> <li>2 児童にとって安心感のある場所の提供にとどまらず、学校不適応の未然防止に力点を移し、主体的で協同の学習活動のある授業づくりを推進する。</li> <li>3 教育的ニーズに応じた支援を充実させ、保護者との合意形成に基づく特別支援教育の充実に努める。</li> <li>4 峰山学園の他校と切磋琢磨し、互いの指導のよいところを取り入れ、小中一貫教育の質を高める。</li> </ol>		

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立いさなご小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>峰山学園の教育目標である「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」を目指して教育活動を展開する。</p> <p>学校再配置による開校1年目として、見通しを持ち計画的な学校経営に努めることで、それぞれの学級経営を安定させて保護者・地域の信頼を得る。</p> <p>京都府小学校教育研究会研究協力校として、算数科の授業研究を進めていく。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挑戦する心を持ち、粘り強く課題に取り組もうとする意欲を高めることができた。</li> <li>○ 漢字・計算力を高める取組を継続的に行うことにより、児童の意欲を高めると共に漢字・計算力の向上を図ることができた。</li> <li>△ 引き続き、自分の思いや考え方表現する力を高める取組を計画・継続的に進めていく必要がある。</li> <li>△ 家庭学習・読書など保護者との連携を深め、取組をさらに進める必要性がある。</li> </ul>	<p>今年度の達成目標の実現に向けた実践を進める。</p> <p>「進んで学び、心優しく、主体的に行動する子どもたちを、家庭・地域とともに育てる学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) すべての学びに根気よく向かい、よく考え学び合う学校</li> <li>(2) 人との温かなつながりを大切に、互いのよさを認め合い豊かな心をはぐくむ学校</li> <li>(3) 心身ともに健やかで、粘り強くみがき合う学校</li> <li>(4) 家庭・地域の豊かなつながりを生かし、知恵の輪を広げ合う学校</li> </ul>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ねらいが明確で、児童が「わかる授業」・「できる授業」を計画的に進める。</li> <li>2 組織的で個に応じた指導・補習体制を確立させ、基礎学力の定着と発展学習の進展を図る。</li> <li>3 知識・技能を用いて活用する力を育成する授業を積極的に進める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 府小研の算数科研究協力校として、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れ、ねらいが明確で児童が「わかる授業」・「できる授業」づくりに全職員で取り組む。また、家庭学習を含む学力充実の実践研究を進める。</li> <li>2 授業の振り返りとして適応問題のみならず、発展問題の作成に向けて研究を進める。</li> <li>3 放課後の補習・発展学習等により、授業だけでなく、学級での活動全体を通して、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○府小研研究協力校として、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れ、ねらいが明確で「目標と指導と評価」を一体とした授業研究を進めることができた。</li> <li>○△適用問題、発展問題のみならず家庭学習についても実践研究を進めることができた。家庭学習については課題克服のために引き続き努力する必要がある。</li> <li>○△学力補習は3学期より支援ボランティアにきて頂き充実させることができた。しかし、学力に課題のある児童が多い学級もあり、補習や個別指導の充実など今後さらなる取組を進める必要がある。</li> </ul>
生徒指導	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。</li> <li>2 児童の良さを伝え合い、互いに認め合うことで、児童個々の自己肯定感を高める。</li> <li>3 異年齢集団による活動を工夫し互いに思いやる心を育てる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育相談部を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援方策を明確にしながら、担任・保護者と連携した指導を進める。</li> <li>2 自己肯定感を高める取組を生徒指導や特別活動の取組の中に位置付け、継続的に進める。</li> <li>3 行事や取組では、高学年にはリーダーとしての役割を持たせる。特に6年生には「あこがれの6年生」として積極的に他の学年の児童と関わる場を設定する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導上の配慮を要する児童については、生徒指導部を中心に支援の方向性を明確にしながら、担任・保護者と連携した指導に努め改善を図ることができた。</li> <li>○児童会や各クラスでよいところ見付けなどを行い、自己肯定感を高めることができた。</li> <li>○児童朝会や行事等で高学年らしい態度や挨拶することで、下級生からの信頼を得て学校全体に規律があって楽しい学校風土を醸成することができた。</li> </ul>

健康（体育）・安全	<ol style="list-style-type: none"> <li>全校的な体力にかかる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、学校を休まない強い体を作る。</li> <li>困難なことにも最後までねばり強く挑戦していこうとする態度を育成する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>集中的に朝マラソンや朝縄跳びの取組等を行い、体育の授業と連動することと、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発により、体力（特に持久力）向上と休まず学校に来ようとする意欲を高める。</li> <li>個々のめざす目標を明確にし、個々の発達段階に応じた取組の中で、達成感を持たせねばり強く挑戦する態度を育成する。</li> </ol>	<p>○10分間の朝マラソンや朝縄跳びを体育部を中心になって全校で取り組み、児童の体力面の向上と粘り強く取り組む態度を育成することができた。結果として、京丹後市駅伝競走大会では5位入賞を果たすことができた。</p> <p>△病欠児童が多く休まずに学校に来る体力面や精神面のたくましさには課題が残った。</p>
小中一貫教育の推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>峰山学園の教育目標に迫るために、本校の今年度の達成目標を設定しその実現を図る。</li> <li>10年間を見通した一貫性・系統性のある指導を進める。</li> <li>峰山学園の取組を積極的に保護者・地域に発信する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>峰山学園の教育目標に迫るために、本校の児童の実態をもとに具体的な達成目標を設定し、全教育活動の指針とする。</li> <li>指導法の研究、児童生徒理解等、小中の連携を密にとりながら一貫性・系統性のある指導を進める。</li> <li>ホームページや学校だより、学級通信を活用した積極的な情報発信を行う。</li> </ol>	<p>○峰山学園の教育目標達成に向けて、いさなご小学校の目指す学校像を作成し、学力などそれぞれの分野で目標を立て、成果を上げることができた。</p> <p>○保護者地域アンケートでは、「積極的な保護者・地域への情報発信及び学校公開」について、当てはまるとの回答が100%をいただくことができた。</p>
研修（資質向上の取組）	<ol style="list-style-type: none"> <li>職員の指導力向上に向けた研修を行い積極的に進める。</li> <li>個に応じた指導の推進と指導法について研修を進める。</li> <li>峰山学園を目指す10年間の連続した学びと育成を目指した研修を進める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>京都府小学校教育研究会の算数科教育研究協力校として、丹後教育局、京丹後市教育委員会の指導助言を受けながら、職員の指導力向上に向けた研修を行う。</li> <li>職員会議や校内研修の校長通信を活用して、個に応じた指導法についての研修を行う。</li> <li>峰山学園のを目指す児童像を共有し、その実現に向けた取組のあり方について研修を進める。</li> </ol>	<p>○府小研の算数科研究協力校としての1年目を終え、図形領域における授業研究を行い、研究成果をまとめることができた。</p> <p>○職員会議や校内研修の校長通信を活用して、学級経営や個に応じた指導法などを共通確認させることができた。</p>
開かれた学校づくり	<ol style="list-style-type: none"> <li>丁寧で分かりやすい双方向の情報発信を行う。</li> <li>PTA・地域の関係諸機関等と連携した取組を強化する。</li> <li>地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図る。</li> <li>再配置による開校1年目として、保護者・地域との情報の共有・双方向での発信を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子を積極的に発信する。</li> <li>PTAをはじめ関係諸機関等との連絡を密に取り、協力を得る。</li> <li>地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。</li> <li>再配置による開校1年目として、保護者・地域の思いを吸い上げながら情報の共有を図り、よりスムーズに学校経営を進めていく。</li> </ol>	<p>○開校1年目で、保護者地域の方々が不安に感じていることを配慮して、ホームページの検索が可能になった2学期より、毎日更新し学校の様子を伝えた。目標の2万アクセスを超えることができた。</p> <p>○朝マラソンの学校支援ボランティアや外部講師を有効に活用し、教育活動の活性化と充実を図ることができた。</p> <p>○PTA、いさなごっ子見守り隊を含め関係諸機関との連携を図り、協力して教育活動を進めることができた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>再配置1年目ということで、吉原・五箇地区大運動会などいろいろな課題を乗り越えてきたが、さらに、研究協力校としての発表も控えており教職員の加重勤務とならのように常に配慮をしながら、最大の効果ができる教育実践を行う必要があると考える。</li> <li>旧吉原小学校の時から児童の病欠が多いので休まない体力づくりなど、粘り強くがんばる児童の育成と、保護者の啓発活動を進めていく必要があると考える。</li> </ul>		

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立新山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】		<ul style="list-style-type: none"> <li>○分かる楽しさ出来る喜びの実感を伴った授業改善に取り組むことが出来た。</li> <li>○学校事故件数が更に減少した。</li> <li>○教員の課題意識が向上し、協働して教育課題の解消に取り組もうとする意欲が顕著になってきた。</li> <li>△組織の効率化・機能化の改善を進める。</li> <li>△「分かる楽しさ出来る喜びの実感を伴った学習の創造」「分かりやすく伝える力の習得」「学び合う集団」の実現に向けた学級づくり・授業づくりを目指す。</li> <li>△児童自らが正しく主体的に判断し、行動できる力を培う。</li> <li>△教育課題克服のため、発達段階と指導の系統性を明らかにする。</li> <li>△家庭・地域との連携を充実させ、家庭の教育力の向上を図る。</li> </ul>	<p>1 確かな学力の育成 2 コミュニケーション能力の育成 3 評価を見通した取組の充実</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	1 児童の学力実態や学習状況を的確に把握し、指導方法や授業改善し、学習意欲を高める魅力ある学習指導を行う。 2 自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決する力、豊かな表現力、豊かな人間関係を生み出す力の育成に努める。 3 豊かな人間関係を背景に将来に渡って、自ら学び続けようとする意欲と態度を醸成する。	1 学力診断テストや学力・学習状況調査等の結果分析に基づき、学習意欲の向上、基礎学力の定着を図るために学習形態の工夫・授業改善に取り組む。 2 目標と指導と評価の一体化を進めるに当たり、総括テストの実践と授業改善を進める。 3 算数科の授業研究を核として、自分の考えを伝え・共に考える力の向上を目指し、課題解決を楽しみ、継続して学習しようとする意欲を育成する。 4 全教育活動で言語活動を充実し、的確に伝えることのできる能力の向上を図る。 5 授業と家庭学習を関連付け、学力の向上を図る。 6 家庭訪問・連絡ノート・懇談会・たより等で家庭との連携を図り、生活習慣等の課題の改善に取り組む。	○「学習意欲の向上」を意識して、「学び合い」「ユニバーサルデザイン」「試行錯誤」の3つの切り口から授業改善を試みた結果、「興味を促す課題の設定」「思考を促す授業展開の工夫」「全ての児童が活動し易い学習環境」等の視点が、それぞれ関連し合いながら「分かる・できる」授業が成り立つことを教員が実感として掴むことができ、授業改善が進んだ。 ○「目標と指導と評価の一体化」の具体化をスタートさせることができた。 △授業の構造化を進め、授業の中での学習活動の無駄を省き、時間を有効に活用する授業づくりを進めたい。 △授業と家庭学習を有効に関連付ける指導計画の作成を進めたい。
生徒指導	1 人権尊重、規範意識の醸成という観点に立ち、教育活動全体を通じて、児童の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成を図り、より良い人格の形成を促す。 2 自らの課題を解決する意欲と実践力を育成する。 3 「いじめ」「不登校」等の諸問題	1 生徒指導の3機能を生かした学級経営に努め、子ども同士を適切に繋ぎ、児童一人一人が有用感を持って活動できる学級を基盤に据え、学習指導はもとより多様な活動に取り組む。 2 児童が自己決定をしていく場を充実させ、主体的に問題を解決する態度を育てる指導を行う。 3 学級経営評価にアンケート等のデータに基づく児童の意識の変容の視点を加味する。 4 学級経営評価と共に、学級経営のアセスメントを作成	○Q-Uアンケートを実施し、教員が児童の規範意識や学級集団への帰属意識を把握し、児童個々の課題を児童の意識から捉えることで、教員自らの指導課題を明確にすることが出来た。 △学級を人格を陶冶させる集団と考えた場合、担任個々の学級経営の手段が十分でなく、課題に対して適切に迫り切れていない部分があった。 △保護者と共に問題行動の原因と改善方策を考えられるように、指導にゆとりを持たせたい。

	題は、未然防止に向けて早期発見・早期対応並びに日常的な教育相談活動を行い「心の教育」の充実を図る。	し、学級個々の課題にアプローチする改善方策を提示する等、学級経営の充実を図る。 5 生徒指導部会を充実させ、問題行動事象対応、いじめ・不登校未然防止、規範意識の高揚、日常的課題事象に対するセンター的機能の充実と共に、生徒指導の3機能を生かした指導の在り方に迫る活動を充実させる。 6 生徒指導上個別な支援が必要な児童について、支援内容・方策・体制・家庭との連携内容等について組織的な対応を充実させる。	△「不登校」について、関係機関との連携でSCの支援も受けながら対応を進めているが、保護者と共に課題を共有し、短期・中期・長期の目標を整理しながら状況の改善を図っていきたい。 △行為者不明の事象への対応が不十分であった。行為者の特定をはじめ、行為が発生する背景や行為者自身が自らの行為を振り返る指導が必要である。
健康（体育）・安全	1 体を動かす習慣を身に付けさせ、体育・スポーツ活動に親しむ能力や態度を育成し、体育・運動能力の向上・充実を図る。 2 早寝早起きなど基本的な生活習慣を確立し、健康で安全な生活を営むたくましい実践力を育成する。	1 校内事故の防止指導の充実、登下校の安全指導・体制を更に充実させる。 2 体育の授業の中だけでなく、遊び・朝マラソン・朝縄跳び等の体を動かす機会での指導を充実させ、児童の基礎体力の向上を図る。 3 計画的に食育・保健指導に取り組む。 4 生活点検の取り組みで保護者と連携して生活改善に取り組む。 5 体・心・命の教育、薬物乱用防止教育に取り組む。 6 施設点検・管理を徹底し、安全指導に取り組む。 7 多様な状況を想定した実践的な避難訓練に取り組む。 8 登下校の安全を守るために地域・PTAと連携する。	○薬物乱用防止教室を開催し、児童だけでなく保護者にも学習の機会を持つことが出来た。 ○登下校では、校外指導担当を中心にきめ細かに指導を行うことが出来た。 ○定期的に学校施設の安全点検を全教職員で行い、安全な教育環境の具体化が出来た。 △食育・保健指導の取組が一時的なものとなり、計画的な実践とならなかつた。指導計画に沿つた取組の充実を進めたい。
小中一貫教育の推進	1 本格実施3年目として「中学卒業時を見通す」の視点で、教育活動に取り組む。 2 小小・小中連携を進める。	1 I期の最終学年までに付けるべき学力や社会性等について系統性を明らかにし、II期への円滑な移行についての実践を追究する。 2 II期のカリキュラムの充実・改善を進める。 3 小小連携を充実させ、「目標と指導と評価の一体化」の実践を進める。	○「目標と指導と評価の一体化」の具体化が進み、一部ではあるが、考える力・説明する力・表す力を測る総括テストの作成が出来た。 △I期からII期への学習面・生徒指導面での円滑な移行を進めるために、I期での指導課題を明らかにした取組の充実が必要である。
危機管理	1 事件や事故自然災害から児童や教職員を守る取組を進める。 2 学校教育への保護者・地域の信頼を高める実践を推進する。	1 教職員に、「危機管理マニュアル」を徹底し、事故・災害等発生時の行動が的確に行えるよう訓練を行う。 2 問題事象等への対応では、早期発見・早期対応を基本とし管理職への報連相はもとより、保護者に不信や不安を招かないように丁寧な連携に努める。	○予防的な危機管理の意識を持たせることで、事前の準備連絡の励行が進んだ。 △全治2~3ヶ月の校内事故が発生する等、上半期に昨年度よりも校内事故の発生件数が増加した。学校全体での危機管理意識の徹底を図らなければならない。
研修（資質向上の取組）	自らの使命と責任を自覚し、豊かな人間性、広い社会性、高い専門性をめざした研修を行い、実践的指導力の向上を図る。	1 教科指導力、生徒指導力の向上、課題対応力の向上、配慮児童への支援の充実を目指した理論研修・事例研修を充実させる。 2 教師自らが自己課題と向き合い、積極的に課題解消に努め、自らの指導力を高められる組織的・協働的な研修を進める。	○教員自らが、主体的に教育活動に取り組むことを意識させたことで、授業づくり・集団づくりに指導工夫しようとする意識の向上が見られた。 △仕事(任務)として課題と解消の方策を指摘し合える協働意識の向上を目指したい。
次年度に向けた改善の方向性	・今年度手掛けた、教員自らが主体的に指導課題に向き合い解消に向けて研鑽を積み上げようとする経営スタイルを継続させたい。 ・教員個々の教師力の向上を大きなテーマとし、「危機管理意識の向上」「自らの授業力・生徒指導力の向上」「教育課題の共通理解と対応の徹底」を主たる課題と位置付け、小中一貫教育をはじめとした様々な教育の改善方策を通して学校経営の改善を進めたい。		

## 平成28年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立丹波小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】 2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】 3 保護者・地域に信頼される学校 【保護者・地域】		<p>○研究授業等を通して言語活動の重視や生徒指導の三機能を生かした授業改善が推進できた。また、基礎・基本の定着も図られてきた。</p> <p>○組織的な取組により、児童は互いの良さを認め合い、自己肯定感も高まってきた。</p> <p>○保護者や地域と連携した取組を進めることができた。</p> <p>△児童の自主性・主体性を高め、更なる学力向上、基本的な生活習慣の確立をめざす。</p>	<p>1 確かな学力の育成 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」授業を推進するため、共通した視点を踏まえ、小学校から中学校までの貫した実践を進める。目標と指導と評価の一体化を進める。</p> <p>2 コミュニケーション能力の育成 生徒指導の三機能を踏まえた就学前から中学校まで貫した積極的な生徒指導を進める。</p> <p>3 評価を見通した取組の充実</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<p>1 児童にとって「わかる」「できる」授業、身に付けた知識・技能を用いて活用する力を育成する授業を進める。</p> <p>2 個に応じた指導や家庭学習・読書の習慣化を図り、基礎・基本の力を定着させる。</p> <p>3 多様な人と関わる学習活動を設定し、児童の学びを深める。</p>	<p>1 A層・C層への具体的手立てを考え、全員の児童が分かる授業づくりをするとともに、目標と指導と評価の一体化、生徒指導の三機能を生かした授業、言語活動を重視し、主体的・協働的な学習活動について研究を行う。</p> <p>2 ドリルタイム・言語タイム・放課後補習・4年ぶり夕等による未定着内容の回復や個に応じた指導により、基礎学力の定着を図る。また読書活動の充実や家庭と連携した家庭学習頑張り週間等の取組を年間通じて行う。</p> <p>3 外部人材の活用や他校との交流、校外学習・体験活動等、様々な人と意欲的に学習できる場の設定を行う。</p>	<p>○重点の算数科を中心に学園共通の視点や先進校から学んだ理論を実践・研究に生かし、全学級で授業改善が進んだ。児童アンケートでほぼ全員が「授業がわかる」と答え、CRT・学力調査等の結果では国語・算数とも全学年で平均を大きく上回った。</p> <p>○ドリルタイムや放課後補習で基礎学力の定着や個に応じた指導を行った。家庭学習習慣化の取組も年6回実施し、自主勉強を継続して取り組む力が付いてきた。</p> <p>○多様な外部人材の活用、合同授業等、学習形態の工夫で、「意欲的に取り組んだ」という児童が大幅に増加した。</p> <p>△応用力やA層の児童への指導をより充実させる。</p>
生徒指導	<p>1 達成感を味わう経験や互いの良さを認め合い、伝え合う活動を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高める。</p> <p>2 発達段階に応じた「思いやり」の心と態度を育成する指導を進める。</p>	<p>1目標を持たせ、達成させる指導を行う。また授業、学級活動、異年齢集団活動の中で、生徒指導の三機能を意識した指導を行い、自他の良さを認め合い、伝え合う場を設定する。</p> <p>2 「思いやり・親切」にかかわることについて、道徳の時間を中心とした教育活動を通して日常的に指導するとともに、人権月間等の取組を活用し、計画的な指導を行う。また、いじめ調査に関わり、必要に応じ具体的な指導を行う。</p>	<p>○月目標の設定と具体化、評価を行い、実践への達成感を持たせた。また様々な異年齢活動や話し合い活動を重視し、互いの良さを認め合う場を設定することで、良好な人間関係や自己肯定感も高まってきた。</p> <p>○道徳、人権学習や日々の具体的な指導の中で思いやりの心を育み、児童アンケートでは「友達の良さを見つけ、仲良くする」が、昨年よりも良い結果となった。</p> <p>○気になる児童は、家庭状況を把握し情報共有しながら組織的な対応や指導で安定した学校生活が送れた。</p> <p>△自己肯定感のまだ低い児童へ指導を継続して行う。</p>

健康（体育）・安全	<p>1 全校的な体力づくりの取組を充実させ、基本的な生活習慣の確立により、強い体を作る。</p> <p>2 困難なことにも粘り強く挑戦していくこうとする態度を育成する。</p>	<p>1 全校での朝の体力作りや体育的行事と体育の授業を連動させ、運動への意欲を高め、体力向上を図る。またPTAと連携した元気貯金の取組で、基本的な生活習慣の確立を目指す。</p> <p>2 学校、学級での取組において個々の目指す目標を発達段階に応じて明確にする。粘り強く挑戦する態度を継続させるための手立てや指導を体育・道徳の時間や学級活動、学校行事を中心に計画的に行う。</p>	<p>○全校朝マラソンや縄跳びは、行事や体育授業とも関連付けて取り組み、陸上の出前授業等も実施できた。</p> <p>○縄跳び大会は全校が意欲的に取り組み、技術も伸びた。</p> <p>△基本的な生活習慣は家庭の協力で取組中は良い結果となるが、継続しどの児童も定着することが課題である。</p> <p>△「粘り強く」「挑戦する」ともに全校児童ができていると回答しているが、どんな場でもやり切る態度をさらに身に付ける必要がある。</p>
小中一貫教育の推進	<p>1 保育所・幼稚園・子ども園・中学校との連携した取組により、一貫した教育を強化する。</p>	<p>1 峰山学園教育目標の実現に向けて、保育所・幼稚園・子ども園・中学校との研修、取組のねらいを明確にし、教育課程に位置付け、一貫教育を推進する。</p>	<p>○学園の目標、重点を大事に本校の研究や学力充実期間等の取組を進め、授業力や児童の学力向上にも繋がった。</p> <p>○保育所訪問、合同校外学習・中学校体験等、他校・園との取組で、子ども同士の交流や連携が深まった。</p> <p>△保護者への情報発信と啓発はさらに必要である。</p>
特別支援教育	<p>1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。</p>	<p>1 教育支援部会を中心に、支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援の手立てを明確にしながら、組織的に指導を進める。また、年間を通した家庭との連携も重視して進める。</p>	<p>○定例の教育支援部会で、児童の実態把握と対応を組織的に検討し、関係機関とも連携し具体的な指導を進めることで効果が見られた。(巡回相談・臨床心理士・医療等)</p> <p>○面談や連絡を密にし、保護者の協力を得て指導できた。</p> <p>△全校の障害者理解教育を更に充実させることが必要。</p>
開かれた学校づくり	<p>1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。</p> <p>2 PTA・地域の関係機関等との連携を強化する。</p>	<p>1 学級・学校とも、たよりやHPで常時、児童の肯定的な評価、保護者等からの意見の反映等、双方向を意識した誌面作りを行う。また学校公開日を設け、保護者や地域住民の学校参観を促進する。</p> <p>2 PTAと連携し、「読書」「早寝」「褒めて育てる家庭教育」の取組を進める。また安全パトロール隊や学習支援ボランティア、ゲストティチャーを活用した授業等、地域一体となった教育活動を進める。</p>	<p>○たよりや通信、HP等で情報発信に努め、学校公開・参観の感想も知らせることができた。</p> <p>△HPは緊急時の連絡等も載せ内容を充実する。</p> <p>○親子読書、元気貯金や家庭学習、安全の見守り等、PTAと連携した取組が年間通して実施できた。</p> <p>○地域や外部の人材・団体の活用で学習内容が深まり、様々な文化に触れ、体験することができた。</p> <p>△次年度は保護者・地域の方と更に連携を深め、丹波や自校の良さを感じる教育活動を一層推進したい。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>(1) 丹波小学校最後の1年として、閉校・開校に向けた取組を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな集団の中でも自信を持って考え、判断し、表現できる確かな学力と人間関係構築力を身に付けさせる。</li> <li>・丹波小学校や丹波地域の良さを知り、誇りや愛着を持つ教育活動や地域・保護者と連携した思い出に残る行事の充実を図る。</li> <li>・新山小学校との合同学習等、児童や保護者が安心して開校が迎えられる教育活動を計画的に進める。</li> </ul> <p>(2) 特別支援教育の充実や教育相談等、個に応じた丁寧な指導を進める。</p> <p>(3) 協働体制をしっかりと組み、全校体制で児童の指導にあたり、教育目標である自己肯定感の向上を目指す。</p>		

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立長岡小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して「自己肯定感を持ち自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」に努める。</p> <p>（目指す子ども像）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲を持って自ら学ぶ子ども</li> <li>・思いやりのある子ども</li> <li>・進んで心と体を鍛える子ども</li> </ul>		<p>○課題のある児童はあるが、全体として落ち着いた学習環境の中で教育活動が進められ、大きな生徒指導上のトラブルや不登校に関わる事例もなく、ほとんどの児童は、安定した学校生活を送ることができた。</p> <p>○授業研究や各取組に中堅の教員が中心となって関わり、内容の充実とともにそれが教育実践力量を上げることができた。</p> <p>△コミュニケーション力や表現力の弱さからくる望ましい人間関係づくりへの課題に対する取組の充実</p> <p>△基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた組織的・計画的取組</p> <p>△教職員の指導力量の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の定着を図り、思考・表現・判断力を充実させる学習活動の推進 ＜確かな学力の育成＞</li> <li>・生徒指導の三つの機能を活かした学級経営（居心地のよい学級づくり）の推進による、望ましい人間関係の育成</li> <li>・工夫ある研修による、授業力・指導力の向上 ＜コミュニケーション能力の育成＞</li> <li>・家庭や地域と協働する学校づくりの推進</li> <li>・健やかな心身を育み、たくましく生きる力の育成</li> </ul>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<p>○確かな学力の育成</p> <p>(1) 自己肯定感を高め、わかる・できる授業を推進するため共通した指導の視点を踏まえ、小学校から中学校までの一貫した指導を進める。</p> <p>(2) 目標と指導と評価の一体化を進める。</p>	<p>(1) 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」授業推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニークアーティグインを意識し多様な学習形態を導入した授業</li> <li>○アクティブラーニングの視点を意識し、主体的な活動の場のある授業</li> <li>○児童も教師も楽しむ授業の工夫改善と学ぶ意欲の育成</li> <li>○小小連携、小中連携による9年間を見通した指導の工夫</li> </ul> <p>(2) 目標と指導と評価の一体化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実態に応じた目標設定と評価まで見通した指導の充実</li> <li>○スキルの工夫・充実、家庭学習の習慣化による基礎学力の定着・向上</li> <li>○朝読書、読み聞かせ等による読書活動の充実</li> </ul>	<p>○外部講師を招きユニークアーティグイン、アクティブラーニングの視点等の研修を実施することで、校内の授業研究会でそれを意識した授業作りについて研究を深められた。</p> <p>○峰山学園の授業研究会で他校との交流を進める中で、9年間を意識した指導について考えられた。</p> <p>○学力課題に基づいた達成目標を設定して全校スキルを実施し繰り返し練習させることで、児童に力が付いたと実感させられた。</p> <p>△放課後補習等に取り組んだが、基礎学力の確実な定着までには至らなかった児童がいる。</p>
生徒指導	<p>(1) 生徒指導の3機能を取り入れた学級経営と授業づくり（安心して自己表現できる居心地のよい学級・学校づくり）</p> <p>(2) 自己肯定感を高める生徒指導の取組</p>	<p>(1) 生徒指導の3機能を取り入れた学級経営と授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○研修の工夫による教師の指導力向上</li> <li>○児童と教職員、児童相互の協働的活動を通し、温かい人間関係の構築</li> </ul> <p>(2) 自己肯定感を高める生徒指導の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○肯定的評価を大切に、互いに認め合える関係づくりを進め、一人一人をかけがえのない存在として大切にする安心して自己表現ができる学級・学校づくりを進める。</li> <li>○豊かな体験活動や読書活動を生かした道徳的実践力の育成（教育活動全体を通した道徳的な学習）</li> <li>○不登校未然防止にむけ教育相談体制の充実と取組推進</li> </ul>	<p>△授業研究は全員実施したが、生徒指導の3機能を活かすという点では課題が残った。</p> <p>○道徳教育の研修や人権学習の授業公開を実施し、児童の道徳的実践力の育成に努めた。</p> <p>△全体として自己肯定感は高まった。しかし、教職員の更なる学び合いが必要である。</p> <p>○児童会を中心に、充実した異年齢活動ができ、児童が生き生きと活動する様子がみられた。</p> <p>○関係機関との連携を図り、教育相談活動の充実により、不登校の未然防止につなげられた。</p>

健康（体育）・安全	(1) 健やかな心身をはぐくみ、たくましく生きる力の育成  (2) 危機管理の充実と安心・安全な学校作り、環境の整備	(1) 薬物乱用防止等、体や健康課題への組織的な対応と指導や取組の充実 (2) 教育活動全体を通した食に関する指導の充実 (3) 目標を明確にした継続的な体力づくりの取組の推進 (4) 生命やからだ、健康に関する正しい知識と実践的な態度の育成 (5) 安全点検や避難訓練の実施と安全体制・防犯体制の確立	○心・体・命の学習を全学年計画的に実施し、保護者に公開し理解を得ることができた。 △薬物乱用防止教育は全学年で実施したが、指導計画について来年度見直しが必要である。 ○朝マラソン・縄跳びを実施し体力向上に努めた。児童は意欲的に取り組むことができた。 △通学路、安全・防犯体制の一層の充実が必要である。
小中一貫教育の推進	○峰山学園の一員として、学園経営方針に基づいた教育課題改善 ・確かな学力の育成 ・コミュニケーション能力の育成 ・評価を見通した取組の充実	(1) 学園共通の教育目標及び目指す児童像達成に向けた取組を進める。 (2) 小中一貫教育推進に向けた幼小連携、小小連携、小中連携の取組の意義を全教職員で共通理解し、各取組の推進を図る。 (3) 小一スタートカリキュラム、モデルカリキュラムの自校化に向けた研修や取組を進める。	○全教職員に学園の教育目標や目指す児童像を意識させ、指導を進めることができた。 ○学園で決められた事にしっかりと取り組むことで、小中連携、小小連携を推進できた。保幼小の連携についても進められてきた。 △モデルカリキュラムについては研修が不十分で、自校化を図るところまで進められなかった。
特別支援教育	○児童の特性を踏まえて、合理的配慮の観点に基づいた必要な指導・支援の推進	(1) 児童一人一人の的確なアセスメント、個別の指導計画等の作成と活用を推進する。 (2) 個々の子どもの教育的ニーズに応じて校内委員会を組織し充実を図る。 (3) 発達障害等のある子どもを含めてどの子にもわかる授業づくりを進める。(ユニバーサルデザイン授業) (4) コーディネーターを中心機能する校内体制の構築 (5) 研修会を実施し、特別支援教育についての理解を図る。	○配慮を要する児童のアセスメント票や個別の指導計画を学期ごとに交流し共通理解を図ることで、ぶれのない指導を進める努力ができた。 ○保護者との丁寧な面談・連絡帳交流により、児童の課題を共有し、適切な就学指導に向けて努力した。 ○関係機関との連携を図り、適切な指導・支援を工夫した。 △研修会の工夫により教員の児童理解や児童対応力を更に向上させる必要がある。
特色ある学校づくり	○地域・保護者と連携を図り、教育活動の向上と信頼される学校づくりの推進	(1) 総合的な学習の時間等において、地域人材や学校支援ボランティアを活用し、児童の体験活動を充実させる。 (2) 学級通信、電話連絡、家庭訪問、参観日の設定等、保護者との連携を日常的に進め、児童の状況を共有する。 (3) 学校便りやホームページを活用して情報発信することで開かれた学校づくりに努める。 (4) 学校評価、児童・保護者アンケート等で挙げられた課題を全教職員で共有し、学校改善を具体的に進める。	○総合的な学習の時間において地域との連携を進め、充実した体験活動ができた。 ○ホームページのまめな更新等、情報発信に努めた。 ○地域と連携し、安全ボランティアの日の取組ができた。 ○保護者アンケートの結果を受け、28年度教育活動中間報告会やまとめの報告、授業参観の設定等、保護者の声を生かした取組を進めた。 ○学校支援ボランティアを活用した取組を充実させた。 △学校評価やアンケート等の活用については、時期、内容等、更に工夫が必要である。
次年度に向けた改善の方向性	○学級づくりを基盤とした授業づくりについて研修を深め、教員の指導力向上を図り、児童にとって学びのある居心地の良い学級・学校づくりをする。 ○特別支援教育の視点を大切に、ユニバーサルデザインの良さを取り入れた指導のあり方について研究を深め、児童の基礎学力定着、学力向上に努める。 ○地域・保護者との連携を一層深める中で、安心・安全な学校づくりを進めたり、体験的な学習を充実させたりする。 ○峰山学園の保幼小連携、小小連携、小中連携を充実させることで、児童のスムーズな学校生活を支える。		

(別紙様式1)

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名【京丹後市立大宮第一小学校】

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 2 自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 3 心身を鍛え、活動的な子どもの育成 4 組織的・効率的・機能的な学校経営による信頼される学校づくりの推進		<ul style="list-style-type: none"> <li>○組織的授業研究による授業改善、全校体制による早期回復指導により、基礎学力が向上してきた。</li> <li>○学校運営システムの充実推進により、問題行動事象や不登校課題が着実に改善してきた。</li> <li>△個別な児童課題の改善に向けた、子育て支援の強化を図る。</li> <li>△全教育活動で「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を育成するための教育活動の充実を図る。</li> <li>△大宮学園経営の充実を図るため、校内組織推進の強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成</li> <li>○課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力の育成</li> <li>○授業研究の充実、授業改善による基礎学力の向上</li> <li>○教科指導力・生徒指導力・対応力の向上</li> <li>○突発的事象に対する、組織的支援力・対応力の向上</li> <li>○改編・改善大宮学園の組織運営・教育活動の充実</li> <li>○懇談、家庭・地域との連携強化による家庭教育支援の充実</li> <li>○改善学校運営システムによる、経営機能の強化</li> </ul>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら課題を見つけ、主体的に課題を解決する力、豊かな表現力を育成する。</li> <li>○児童の学力実態や学習状況を的確に把握し、基礎的・基本的事項の定着を図るべき授業改善を推進する。</li> <li>○算数科を重点教科とし、小小連携、小中連携により指導法の改善に取り組む。</li> <li>○小中一貫関係モデルカリキュラム、大宮学園3カリキュラムを生かした学習指導を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教育活動で思考力・言語力(書く・読む・表現)の向上を図る。</li> <li>・各学力診断テスト結果分析に基づき、学習意欲・基礎学力の向上のための授業改善を図る。</li> <li>・算数科を重点研究教科とし、指導法改善を進め、算数科学力課題の改善を図る。</li> <li>・組織的指導体制を整え、全校放課後算数補習、朝ドリル、長期休業中補習の充実を図る。</li> <li>・形成評価、単元末評価等、計画的な効果測定により、個に応じた即時回復指導、早期回復指導の工夫・徹底を図る。</li> <li>・年間指導計画に各カリキュラムを位置づけ、定期的に検証を行いながら学習指導の充実を図る。</li> <li>・家庭との連携による「家庭学習のやくそく」の活用や、生活習慣確立の取組を通して家庭学習習慣の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教育活動で思考力・言語力の向上を図ることができた。</li> <li>○各基礎学力診断テスト結果分析、学期毎の基礎学力達成状況分析を踏まえ、授業改善、全校体制による早期の回復指導に取り組み、基礎学力の定着を図ることができた。</li> <li>○指導法の工夫・改善により、個に応じたきめ細かい指導が充実でき、基礎学力の向上を図ることができた。</li> <li>○全学年放課後回復指導の充実を図ることができた。</li> <li>○年間を通した学習指導部の提起により、家庭と連携して家庭学習習慣、家庭学習の充実を図ることができた。</li> <li>△算数科重点研究をさらに充実させ、授業改善を図る。</li> <li>△形成評価を工夫した効果測定に基づく、個に応じた即時回復指導についての工夫・徹底を図る。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「いじめ」「不登校」等の諸課題に対し、未然防止に向け日常的な生徒指導・教育相談活動を充実させるとともに、「心の教育」を推進する。</li> <li>○全教育活動を通して、人権尊重、規範意識・自尊感情の醸成、児童の個性・社会的資質・能力の伸長を図り、自ら課題を解決する意欲と実践力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部会、いじめ対策委員会、教育相談部会のセンター機能を強化し、問題行動事象対応、いじめ・不登校未然防止、規範意識の高揚を目指した指導の充実を図る。</li> <li>・支援会議により、個別な支援が必要な児童の支援方策を検討し、組織的支援の充実を図る。</li> <li>・読書活動を充実させ、豊かな感性や言語力の育成を図る。</li> <li>・道徳の時間、全ての教育活動を通して人権教育を推進し、自分や友達を大切にできる児童の育成を図る。</li> <li>・思いやる心と豊かな人間関係を育むため、異年齢活動、自然体験・社会体験活動の充実を図る。</li> <li>・自らの意志で主体的に問題を解決する態度を育てるため、児童の自己決定場面の充実を図る。</li> <li>・学級経営力の向上を目指し、学習集団の育成・人間関係づくり・自治的活動に取り組み、学級経営力の向上を図る。</li> <li>・家庭教育支援、心の教育の充実、下校後の問題行動事象解消に向け、家庭支援・地域との連携の強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導部・教育相談部・支援会議等のセンター機能が発揮され、問題行動事象、不登校、個別支援課題等の児童課題について組織的に改善を図ることができた。</li> <li>○道徳、人権学習の充実により、自他を尊重する児童の育成を図ることができた。</li> <li>○年間を通した多様な異年齢活動・体験活動を工夫し、豊かな人間関係の育成を図ることができた。</li> <li>○全教育活動を通し自己決定場面を工夫・充実させ、「自ら考え、課題を解決していく力」の育成を図ることができた。</li> <li>○学級経営評価を基にした実践研修により学級経営力を高め、豊かな人間関係の育成を図ることができた。</li> <li>△学級・学年・児童会の自治的な活動を充実させる。</li> <li>△登下校・地域での安全、家庭での基本的生活習慣の確立、心の教育など、家庭・地域との連携の強化を図る。</li> <li>△日常的に全校体制による読書指導の工夫を行う。</li> </ul>

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科体育、遊び、体力づくりを通して、楽しく体を動かす習慣を身に付けさせながら、体力・運動能力を向上させる。</li> <li>○安心・安全な生活を営むための危機管理力、危機対応力を育成する。</li> <li>○健康な心と体に成長するため、たくましく生きる実践力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科体育の充実、日常的な活発な遊び、継続的な朝マラソン・朝縛跳びの取組を充実させ、基礎体力の向上を図る。</li> <li>・年間を通して、計画的に食育・保健指導の充実を図る。</li> <li>・安心・安全な学校生活が送れるよう、教職員の日常的な危機管理意識・対応能力の向上、施設点検・安全管理の徹底を図るとともに、実践的な避難訓練の充実を図る。</li> <li>・校内事故防止指導、登下校安全指導・体制の充実を図る。</li> <li>・生活点検の取組を充実させ、基本的生活習慣の改善を図る。</li> <li>・より良く生きるために体・心・命の教育の充実を図る。</li> <li>・登下校の安全を守るための地域・PTA連携の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間を通して教科体育、体力づくり、外遊びを充実させることができ、基礎体力の向上を図ることができた。</li> <li>○きめ細かな日々・月ごと・特設の食育・保健指導の成果により、保健意識の高揚を図ることができた。</li> <li>○危機管理意識・対応力を高めるための連携・訓練、施設管理を行い、危機管理力の向上を図ることができた</li> <li>○校内安全指導、保護者・地域連携により校内事故防止、登下校・地域での事故防止の徹底を図ることができた。</li> <li>△生活点検の取組を活用し、基本的生活習慣の改善を図る。</li> <li>△校内生活安全に関わる環境整備・施設整備に取り組む。</li> </ul>
小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大宮中学校区小中一貫校教育目標の達成に向けて、大宮学園経営計画に基づく小中一貫校実践を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一貫と接続を充実させるため、改編・改善した大宮学園組織運営・教育活動の充実を図る。</li> <li>・大宮学園運営システムの機能化・効率化を図る。</li> <li>・「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を高める授業づくり・連携教育活動づくりに向けて研修の充実を図る。</li> <li>・汽水域を中心に小小連携・小中連携教育活動の充実を図る。</li> <li>・中学校卒業までを見通した教育課程編成の充実を図る。</li> <li>・引き継ぎシート活用、各カリキュラム推進、保幼小連携教育活動により保幼小の一貫と接続の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大宮学園の改編組織による運営・教育活動により、児童生徒連携教育活動、職員合同研修、自己肯定感を高める授業づくり等、小中一貫教育の充実を図ることができた。</li> <li>○今年度学園評価により、さらに学力充実・不登校解消に焦点化した次年度に向けての重点目標、重点活動の策定を行うことができた。</li> <li>△効率的で実効性の高い学園経営システム推進により、組織運営・教育活動の充実を図り学力充実・不登校解消に取り組む。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人間尊重の精神を基盤にした「共に生きる心豊かな児童」を育成する。</li> <li>○心身の障害特性に基づく、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネータの機能を充実させ、職員研修・特別支援教育実践力の向上を図る。</li> <li>・定例支援会議による児童実態の把握、指導・支援方法の策定により、全校体制による指導の充実を図る。</li> <li>・発達障害理解・指導についての理論的研修を充実させ、その成果を学級経営・学習指導場面で具現化させる。</li> <li>・保護者・関係機関との丁寧な連携、個別の指導計画に基づき、個別な配慮が必要な児童への組織的支援の充実を図る。</li> <li>・年間を通じた丁寧な就学指導を行い、障害の状況に応じた適切・適確な個別指導の充実を図る。</li> <li>・障害を正しく理解するため、理解教育の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発達障害理解・特別支援教育体制の充実に関わる研修を行い、個に応じた支援を充実させることができた。</li> <li>○定例支援会議により丁寧な児童実態把握を行い、関係機関、保護者との連携により、共通理解を深めながら個に応じた個別の支援・対応を図ることができた。</li> <li>○様々な個別な事情による突発的不適応状況に対し、状況に応じた組織的支援力・対応力を高めることができた。</li> <li>△さらに、保護者・関係機関との連携を充実させ、個別の指導計画に基づく個に応じた支援の充実に努める。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校・家庭・地域社会の教育環境を整え、子ども達が大切に包み込まれ、育まれていることを実感することができる開かれた学校づくりを推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迅速・的確、誠実で丁寧な家庭との連携を行い、子育て課題克服に向けた家庭連携・支援の充実を図る。</li> <li>・子育て課題を共有し、子ども達に生きる力を育んでいくために、多数の保護者の参加による懇談会の充実を図る。</li> <li>・地域の教育素材・人材を学校教育に有効に活用するため、地域・保護者との連携の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○迅速で丁寧な家庭との連携を行い、児童の個々の課題に対する改善に向けた連携を充実させることができた。</li> <li>○地域の教育素材・人材を活用した教育活動の充実を図ることができた。</li> <li>△子育て課題を共有し、子ども達に生きる力を育んでいくための全員参加による学級・学年懇談会の開催を目指す。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<p>【組織的推進】</p> <p>【教育・研修】</p> <p>①経営的会議としての学年主任会、教育課程推進会議としての企画委員会について、機能の強化、推進の効率化を図る。</p> <p>②大宮学園目標である「ことばの力」「思いやる力」「つながる力」を育むための教育活動の充実を図る。</p> <p>③人権意識・規範意識の高揚を図り、自ら考え判断して生活上の諸問題を解決する力を育むための学級経営・学校運営の充実を図る。</p> <p>④課題解決力、表現力、人間関係を結ぶ力を育むための教育活動の充実を図る。突発的不適応状況に対する、組織的支援力・対応力を高める。</p> <p>⑤理論的研修・実践的研修の充実を図る。(算数科授業改善、生徒指導力・対応力の向上、新学習指導要領準備)</p> <p>【連携】</p> <p>①大宮学園3会議・3部会と、校内小中一貫教育推進部の接続の強化を図る。</p> <p>②学級懇談会、家庭・地域との連携を充実させ、家庭の教育力の向上、学校教育の充実に向けた地域の教育力の活用を図る。</p>		

## 平成28年度 学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立大宮南小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「自他を尊重し、自ら学ぶ子どもの育成」 上記教育目標を達成するために、教職員が組織の一員として協働意識をもって自己の役割と責任を果たし、再配置校として地域・保護者から信頼され、児童にとって行きたくなる学校づくりを目指す。		<p>○教師の授業力が向上するとともに、児童は落ち着いて学習にのぞむことができ、学力向上が進んだ。</p> <p>○人権の取組を継続的に行い、互いの違いや良さや認め合うという人権意識が高まった。</p> <p>△不登校傾向の児童もあり、発達障害等様々な個別課題に対応するための一層の手だての追究が必要である。</p> <p>△小中を接続させるための授業づくり、授業計画の策定は課題である。</p>	<p>大宮学園小中一貫教育を推進し、「目指す子ども像」に迫る。</p> <p>〈大宮学園 目指す子ども像〉</p> <p>(1)意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 (2)自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 (3)心身を鍛え、活動的な子どもの育成</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	(1)質の高い学習態度と授業規律をもった学習集団の育成 (2)中学校との接続を意識した連続性のある指導の充実 (3)家庭との連携による家庭学習の質・量の向上	(1)安定した学級経営のもと落ち着いて学習にのぞめる学習集団をつくる。(大宮学園人材育成担当との連携) (2)国語科・算数科を中心に大宮学園研究授業や校内研究授業で小中一貫教育の視点を大切にした研修を進める。 (3)小小連携加配、小中連携加配、小中一貫教育SSの活用を図り、小中接続を意識した授業づくりを推進する。 (4)大宮学園「学習の手引き」を活用し、学園全体としての家庭と連携した家庭学習習慣の強化を推進する。	○安定した学級づくり、学習規律の定着に向け月目標を決め、学校朝会で振り返りの発表を行う等継続した指導で児童の変容が見られた。 ○中学校への接続を意識した国語の授業づくりを行い、表現力(話す・書く)を高めた。 ○習熟度別授業、チームティーチング等、児童実態に応じたきめ細かな指導で学力が向上した。 ○△家庭学習旬間の取組を展開し、その時期には成果が上がったが、日常的な自主学習に課題が見られた。
生徒指導	(1)人権教育の理念に基づく「自他を大切にする心」を育成するための教育活動の充実 (2)規範意識の高揚 (3)学級経営の充実を基盤として特別活動等を通して豊かな心の育成	(1)人権教育カリキュラムに基づいた人権学習を進め、互いの違いやよさを認め合える学級づくりを行う。 (2)児童の状況を的確に把握し、非行防止の取組等を家庭・地域と連携して行うとともに日頃より積極的な生徒指導を展開する。 (3)児童課題に応じた目標設定を行い、PDCAサイクルで実践を行うことで児童を鍛え、高める異年齢活動、学級活動を通して人間関係の形成と規範意識を高める。	○人権旬間・人権意見発表会と年間を通した学校全体の取組を進め、違いや良さを認め合える学級づくりができた。 ○4年生以上に非行防止教室を実施するとともに、学級懇談会、家庭訪問等、日頃より家庭との連携を大切にした生徒指導を行い、児童は安定している。 ○△学校体制で取り組んで改善に向かっているが、不登校傾向児童、発達障害等、様々な個別課題に対応する教員の指導力・対応力が課題である。

健康（体育）・安全	(1)体力づくりの推進 (2)基本的な生活習慣の定着 (3)学校内外の安全指導の徹底	(1) 楽しく体力の向上が図れる、工夫した体力づくりの取組を行う。 (2) 計画的・重点的な保健指導とともに生活改善の取組を実施する。 (3)PTA、大宮南子ども見守り隊、防犯ステーションと連携を図り、安全指導を徹底する。	○△マラソン・縄とび等、全校的な取組を行うとともに中学校体育教員と連携し、中学進学を意識した体力づくりが図れたが、柔軟性・巧緻性と課題が見られる。 ○安全ボランティアによる見守り、付き添い登校、PTAによるニコニコカーパトロール等、安心安全の取組を進め、無事故で1年を終えることができた。
小中一貫教育の推進	(1)確かな学力の育成 (2)人権意識の育成 (3)キャリア教育の充実  ～「ことばの力カリキュラム」「人権教育カリキュラム」「キャリア教育カリキュラム」の実践と検証～	(1) 確かな学力の育成 ・小中接続を充実させるための授業づくり～小小・小中連携加配、小中一貫教育SSの効果的な活用 ・「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を目指した授業づくり ・小1スタート・アプローチプログラム、小4ふりスタ、 (2) 人権意識の育成 ・「自他を大切にする心」を育成するための人権の取組 ・人権学習(予防教育含む)の充実 (3) キャリア教育の充実 ・汽水域を中心とした連携教育活動、幼児児童生徒交流学習の充実 ・学校のきまりの策定と効果的な指導(学習規律・生徒指導・PTA家庭の約束)・小4夢・未来式	○連携教育活動(合唱祭、地域清掃、部活動体験等)を行って、中1ギャップの解消に繋がっている。 ○△大宮学園研修会で学力課題、指導課題を共有し、「小学校で身に付けたい力」を意識しながら指導を積み上げている。定着には課題がある。 ○節目の1年、4年、6年で連携プログラム、小中一貫取組を充実させ、児童の成長が図れた。(1年:スタートカリキュラム、4年:夢未来式、振り返りスタディ・6年:共通課題等) △体験授業や小学校同士の交流等は不十分であり、大きな集団になじむ機会が必要である。
開かれた学校づくり	(1) 学校の情報を積極的に発信し、信頼される学校づくりにつなげる。 (2) 保護者・地域の声を学校改善に活かす。	(1)授業・行事参観、家庭訪問、学級懇談会・地区懇談会を実施する。 (2)学校便り、学級通信、ホームページによる教育活動や情報の積極的発信を行う。 (3)評価アンケートを行い、学校改善に活かす。	○ホームページや学校便りで積極的に情報発信を行った。 ○地域人材や学校支援ボランティア、高校出前授業等、多くの外部人材に学校に入っていただき、教育活動の活性化に繋げることができた。
特別支援教育	(1)通常学級における特別支援を要する児童に対して適切な支援を進める。 (2)職員研修を進め、指導力量を高める。	(1)きめ細かな学級経営と一人一人の課題に応じた指導支援を行う。 (2)定期的な部会を開催し、実態把握と指導計画の策定を行う。 (3)外部と連携した研修を実施し、教員の指導力の向上を図る。	○適切な支援ができるよう外部機関と連携し、課題に応じた指導や家庭との連携を行うことで、配慮児童も落ち着いて学校生活を送ることができている。 ○△学校体制で指導支援にあたってきたが、教職員の指導力向上を図っていく必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	(1)人権教育を基盤とし、互いの違いや良さを認め合える学級、仲間はずれやいじめのない学級や学校づくりを一層進める。 (2)すべての教育活動で「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」の育成を図り、特にことばの力は、全教科・教科外指導で充実させる。 (3)家庭・地域社会と連携し(大宮学園教育支援協議会)、小中一貫教育を推進する。より児童の中1ギャップをなくすための連携教育活動の内容の充実に努める。		

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野北小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全校的に落ち着いた学習態度で授業充実を図ることができた。</li> <li>○ 社会科・生活科の授業研究を通して、自分の考えを表現することができる児童が増えてきている。</li> <li>△ 5年生・3年生では、昨年度の府学力診断テスト・CRT・DRT等で課題が見られた。教科の基礎・基本の力を付けなければならぬ。</li> </ul>	<p>「自分なりの考えを持つことができる児童の育成」</p> <p>1 自分の考えを表現することができる。            2 自分や友だちのよいところを見つけることができる。            3 いろんなことに挑戦することができる。</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	1 ねらいが明確で「わかる」「できる」授業を進める。 2 全校体制で個に応じた指導・学力補充体制を確立し、基礎・基本の定着を図る。 3 身に付けた知識・技能を用いて活用する力を育成する授業を進める。 4 児童が意欲的に学習できる場の設定を進める。	1 研究推進部・少人数指導を中心に、ねらいが明確で「わかる授業」「できる授業」の実践研究を行い、学び合う。 2 学力補充・家庭学習等により、授業だけでなく、家庭と連携し、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 3 身に付けた知識・技能を活用して思考する力・判断する力・表現する力を育成することを研究授業の視点として意識しながら授業充実を進める。 4 児童が意欲的に学習できる多様な学習形態を取り入れた授業・環境づくりの設定を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員アンケートで、「ねらいが明確で『わかる』『できる』授業を進めることができた」の問い合わせに100%当てはまる回答している。</li> <li>○ 児童アンケートで「学校の授業は分かりますか」の問い合わせに96%が分かると回答している。</li> <li>○ 児童アンケートで「自分なりの考えを発表したり書いたりしていますか」の問い合わせに87%がしていると回答している。</li> <li>○ 漢字検定45名数学検定47名が挑戦している。山陰海岸ジオパーク研究作品コンテストでも入賞者を出した。</li> <li>△ 今後も授業研究を通して活用する力を身に付けさせ、A層をつくる取組を進めていき、学力の向上を図っていきたい。</li> </ul>
生徒指導	1 よさを認め合い、伝え合える活動を積極的に取り入れる。 2 発達段階に応じた「思いやり」の心を育成する指導を進める。	1 教師が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを学級通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。 2 道徳の時間を中心に、特別活動・学級活動等、全ての教育活動を通して道徳教育・人権教育を推進する。特に「他の人とのかかわりに関すること」2-(2)について指導を重視する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒指導部・特別活動部が連携して積極的な生徒指導を行うことで、運動会・異年齢児童会行事・大縄大会・人権月間等で、児童が相互によさを評価したり、全校集会等で評価したりすることができた。また、相手の立場を考えて自分なりの考えを持ち行動することもできるようになった。</li> <li>○ 保護者アンケートで約90%が、よさを認め合い伝え合っているとの回答が得られた。</li> <li>△ 授業、学級活動、学校行事、児童会の取組等で生徒指導の3機能（自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の場）を意識した指導を行っていきたい。</li> </ul>

健康（体育）・安全	<p>1 全校的な体力にかかる取組の充実により、体力向上を図ったり、基本的な生活習慣を身に付けさせたりして、学校を休まない強い体を作る。</p> <p>2 困難なことにも粘り強く挑戦していくこうとする態度を育成する。</p>	<p>1 期間を決め、体力づくりの取組を行い、体育の授業と連動することで、体力（特に持久力）向上を図ったり、PTAと連携して基本的な生活習慣の確立を目指したりして、休まず学校に登校できる意欲を高める。</p> <p>2 学校、学級での取組において個々の目指す目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」1～（2）についての指導を重視し、粘り強く挑戦する態度を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体力づくりに取り組み、駅伝大会では、三位の結果を得ることができた。</li> <li>○ 学期に1回定期的に生活点検を実施し、児童・保護者の意識を向上させた。また、PTAと連携し「ハイタッチ運動」「親子ガツツ＆パワー見つけキャンペーン」にも取り組み、明るく元気に登校することができるようになった。</li> <li>○ 児童アンケートで「『はやね』をしていますか」の問い合わせに85%がしていると回答している。</li> <li>△ 生活習慣が身に付いていない児童に対して、今後も家庭と連携して取組を進めていきたい。</li> </ul>
小中一貫教育の推進	<p>1 保育所・保育園・幼稚園・中学校との取組を進め、一貫した教育を強化する。</p>	<p>1 保育所・保育園・幼稚園・中学校との研修、取組のねらいを明確にして、一貫教育を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 綱野中学校合唱祭への参加・体育祭見学・部活動体験・中学校授業体験等を通して、6年生児童が、中学校への不安がなくなるだけでなく、期待が膨らんだ。</li> <li>○ 保幼小連携として、5歳児を運動会・マラソン大会・学習発表会等に招待し、小学校へのあこがれを持てるような取組となった。</li> </ul>
特別支援教育	<p>1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。</p>	<p>1 教育相談部会を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援・手立てを明確にしながら、担任と連携した指導を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援校内委員会を定期的に開催し、個のニーズに応じた指導方法を検討し、あすなろ・つばめ食堂等の取組も保護者の理解を得ながら取り組むことができた。</li> <li>○ 年間を通して保護者と懇談することができ、保護者の願いを取り入れた教育支援計画を作成することができた。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<p>1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。</p> <p>2 PTA・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。</p>	<p>1 学校だよりや学級・学年通信、ホームページなどで、学校の様子を分かりやすく発信したり、保護者の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。</p> <p>2 PTAとの積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業公開・学校公開・各種たよりの発行・HPの更新を通して、学校の取組を発信できた。授業参観・学校行事のアンケート結果のまとめを発行することにより、学校の方針の理解につながり、保護者との連携が一層進んだ。ホームページのアクセス数一日100～150（1月22日現在215,363）</li> <li>○ 稲作・そろばん・ミシン・読み聞かせ・通訳・コンピュータ等の学習支援ボランティア、ゲストティーチャーを活用し、地域と一体となった学習を行うことができた。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<p>綱野学園の教育目標・目指す子ども像を基に学校経営を行ってきた。短期の達成目標「自分なりの考えを持つことができる児童の育成」と「12の具体的方策」で、更に成果の見える取組を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童に自分なりの考え方を持って表現できる力を身に付けさせるとともに、教科の基礎・基本を身に付けさせ、見える学力の充実を図る。</li> <li>2 活用する力の育成、学習意欲の向上を図るための取組を行い、学力の安定・充実を図る。</li> <li>3 学校評価から教育実践を取り組むことができるよう、評価の視点・方法を年度の早い時期に明らかにする。</li> <li>4 家庭と連携し、生活習慣を確立させると共に、家庭での学習を定着・充実させる。</li> </ol>		

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立網野南小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
網野町域小中一貫教育の目標から 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成」  目指す子ども像 ・あかるく元気に進んで学ぶ子 ・みんななかよく支え合う子 ・のびのび生き生きやりぬく子		<p>○網野学園学力向上システムに従って、計画的に取組を進めることで、全校の学力向上につながった。</p> <p>○組織的に不登校に対する早期対応を図ることで、不登校傾向児童の登校を促すことができた。</p> <p>△再配置の取組からうまれた「きずなづくり」「つなげる」取組を更に積極的に進める。</p> <p>△小中一貫教育を自校の課題解決、活性化の為に利用する。</p>	<p>1 学校再配置3年目。児童が安心して学校生活を送れる「いごこちのよい」学校づくり</p> <p>2 網野町域小中一貫教育の「目指す子ども像」の具体化を図るため、他の小中学校と一体化した教育推進</p> <p>3 「学ぶ」「つながる」「信頼」をキーワードとした学校経営を進める。</p> <p>4 状況を共有化するために「見える化」に努め、P D C Aによる地道な改善を積み上げる。</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	基礎的・基本的な学習内容の習熟と、思考力・判断力・表現力の向上。  「あかるく元気に進んで学ぶ子」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなで分かり、ひとりでできる」を合言葉に重点研究や日常の教職員の交流により学び合う。</li> <li>・算数科を重点研究とし、「内容」「学び方」「学び合い」を授業づくりの視点とした研究を進め、授業力向上に努める。</li> <li>・網野学園の「これだけは(授業編)」に基づく授業を、組織的・継続的に進める。</li> <li>・網野学園学力向上システムを計画的に回し、目に見える学力向上を目指す。(年度初めの診断テスト等の結果より年度末に実施するD R Tテストでは、平均比においてすべての項目で向上を目指す。)</li> </ul>	<p>○授業研究会を計画的に実施し、網野学園「これだけは(授業編)」を目指す授業ととらえて、研究を積み上げた。</p> <p>○少人数加配を中心に、「図や表を使って考え、式に表す考え方」、「みんなで分かり、ひとりでできる」「わからなさやまちがいから学ぶ」を大切にして授業づくりを進めた。</p> <p>○診断テストの弱点を分析し、課題克服のためにスキルタイムの内容を工夫したり、計算力アップ大会を実施することで全校で学習に向かう気持ちを高めたりした。</p> <p>○D R Tの結果は12項目中、11項目において、年度初めの平均比を上回った。</p>
生徒指導	「いごこちのよい学級・学校」を目標にし、具現化を図る。  「みんななかよく支え合う子」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いごこちのよい学級にするためのアンケート」を年3回(5月、7月、12月)実施し、教育活動を進める際の重要な資料とし、学級経営、学校経営に活かす。</li> <li>・網野学園の「これだけは」を組織的・継続的に進める。(授業規律の確立と規範意識の醸成)</li> <li>・再配置3年目。「きずな」「つながる」をキーワードとして、年間を通して、すべての教育活動で取組を進める。</li> <li>・いじめや問題事象の対応は、迅速に、丁寧に組織的に行う。</li> </ul>	<p>○アンケート結果、学級の観察等をもとに学級実態に応じて「ルールの内在化」「豊かな人間関係づくり」を積み上げることで、年度初めに比べ満足群が10ポイント増え、不満足群が6ポイント減少した。</p> <p>△今後、不満足群へ具体的な手立てを組織的に打ちたい。</p> <p>○企画委員会で2ヶ月をスパンに行動目標を設定し、総合調整後、関係分掌が取組を進めたことが攻めの学校運営につながった。</p> <p>○いじめ事象に丁寧に、組織的に取り組めた。</p>

健康（体育）・安全	健康・体力の増進を図る。 安全の確保を図る。  「のびのび生き生きやりぬく子」	<ul style="list-style-type: none"> <li>市小学校駅伝大会で上位に入賞することも一つの目標とし、朝マラソン等、体力づくりを計画的に進める。</li> <li>生活リズムを付ける取組を定期的に実施する。</li> <li>安全についての意識を高めるために、防犯教室、避難訓練や不審者訓練等を計画的に進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝マラソン、駅伝に向けての練習が、組織として計画的、継続的にできた。Aチーム優勝、Bチーム4位</li> <li>○市給食研で本校レポート報告実施・日々の地道な指導「みんなが心地よく食に向かう全校ランチルーム指導」</li> <li>○保健室前掲示 防災グッズ等、暦に応じた展示内容</li> <li>○全児童出席日数 26日（昨年度 16日）各担任、教育相談部を中心に個の内面理解を丁寧にした。</li> </ul>
小中一貫教育の推進	<p>網野町域小中一貫教育の全面実施</p> <p>○「目指す子ども像」「学校教育目標」「これだけは」の推進</p> <p>○網野学園の各会議、各部会の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「環境が子どもを育てる」という理念のもと、落ち着いた学校、授業を目指す。（全校が集まる場での規律等）</li> <li>授業づくりについて実践研究を深め、「これだけは」（授業編）の授業を推進する。</li> <li>小中一貫教育の取組を自校課題解決の為に活用する。</li> <li>児童生徒の行動連携の機会を大切にとらえ積極的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○網野学園で公開された授業の参観・事後研究会、自校の授業公開・事後研究等で、「これだけは」（授業編）がねらっている内容について論議し、授業づくりや児童の見方について深めることができた。</li> <li>○中学校の定期試験に合わせて「家庭学習がんばり週間」を設定し、より意識して家庭学習に取り組めた。</li> <li>○小中合同で空き缶回収の取組をした。中学生をよいモデルとしてとらえることができた。</li> </ul> <p>※空き缶約 3450 個 38.5 kg 大島中学校へ</p>
特別支援教育	校内サポート体制の確立を図り、個の指導に活かす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学級（こだま学級）や通級指導教室等特別支援教育について、正しい理解と認識を育てる。</li> <li>一人一人の児童の発達の様子、課題を明らかにし、個に応じた教育課程を編成し、基礎的な力を育てる。</li> <li>配慮を要する児童について共通理解し、個別の指導計画等を作成し、個々の児童のニーズに応じた指導を進める。</li> <li>より専門性の高い機関と連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援コーディネーターが配慮児童の状況・手立ての方向性について定期的に校内研で報告することにより、全教職員が情報を共有化し、同じ方向で指導した。</li> <li>○多くの保護者面談（担任、教育相談部、管理職等複数対応）を実施し、個に応じた具体的な支援方法を検討した。その後、改善が見られた事例も多くあった。</li> <li>○ケース会議、外部の専門機関との連携を大切にした。</li> </ul>
特色ある学校づくり	開校三年目。保護者、地域、関係機関との連携を大切に学校経営をし、「信頼してもらえる学校」を目指す。また校区の人・自然・文化について学び、まとめ、情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>再配置による「ひづみ」については、アンテナを高く張り、日常的に柔らかく対応し改善し続ける。</li> <li>地域学習を系統的・計画的に積み上げ、成果を地域に発信する。</li> <li>ホームページ等、積極的な情報発信を行う。</li> <li>網野学園としての連携組織づくりを推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○再配置によるひづみであったPTA役員の選び方について、選挙規定の一部改定をし、納得しつつ役員を選出できるよう改善した。</li> <li>○学習発表会では、地域学習で学んだことを発表し、保護者・地域の方へ日常の学習の積み上げの情報を発信した。</li> <li>○ホームページ 1日アクセス 400～500件</li> </ul>
次年度向 けた改善 の方向性	<p>△学校便りを地域に回覧する。</p> <p>△学力充実の取組 全校が一齊に、明確に取り組める内容を工夫する。</p> <p>△通学路の除雪について、今年以上に保護者・地域の方に協力をして頂くための工夫をする。</p> <p>△全児童出席日数を増やす。</p>		

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立島津小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 図工科の授業研究を通して、言語活動を大切にした指導について、研究を深めることができた。</li> <li>○ 年間を通じ児童も教職員も共に「合言葉」をもとにした全校体制の取組ができてきた。</li> <li>○ アメリカのマン彻スター・メモリアル小との国際交流をスタートすることができた。</li> <li>△ 関係機関とも連携し、教育相談活動の充実を目指す。</li> <li>△ 給食週間や食育の日に合わせた学習はできたが、日常的に意識を高める指導が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 全ての教育活動において、合言葉(短期目標)を位置付け、「島小システム」による学校運営を進める。</li> <li>2 綱野学園の教育目標、経営方針を基に、小中一貫教育の利点を生かした授業力の向上を図る。</li> <li>3 いじめ・不登校等、生徒指導・教育相談の組織的な対応力を高める。</li> <li>4 国際交流を通して国際理解教育実践を進展させる。</li> <li>5 勤務時間縮減に努める。</li> </ul>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・綱野学園の共通指導事項を踏まえた指導を通して、授業改善・学力充実の取組を進める。</li> <li>・図工科の授業研究を他教科の指導力向上に活かす。</li> <li>・綱野学園の取組と連携し、学力向上プログラムを基にした取組を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・綱野学園推進会議の提案をもとに「これだけは！」を、全校でやりきっていく体制を作る。</li> <li>・「これだけは！」を日常的に実践し、三者会及び企画委員会による評価を返し改善を目指す。</li> <li>・朝読書、チャレンジタイムへの評価・改善により、ねらいを明確にした時間として充実させる。</li> <li>・綱野学園と連動して、家庭学習がんばり週間を実施し、効果を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2ヶ月サイクルで示した「合い言葉」は、学級活動や児童会活動につながり、児童に意識させることができた。</li> <li>○ 「これだけは！」を基にした学習規律の指導により、朝読書やチャレンジタイムへの取り組み方(取りかかり、集中)が非常に良くなった。</li> <li>○ 家庭学習がんばり週間は、取組として定着し、学年にあつた学習時間の児童の意識は93%と高かった。</li> <li>△ 研究授業では熱心に論議されたが、図工の指導力を高めるまでには至らなかった。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・綱野学園「これだけは！」の規範意識の醸成を、日常の中で実践する。</li> <li>・「島小システム」を機能させ、目標に向けて意欲的に活動する児童を育成する。</li> <li>・心の教育を充実し、自己肯定感を高める取組を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の活動に規律を意識させるとともに、互いに認め合う場面を作り評価していく。</li> <li>・学期毎に内部評価アンケートを実施し、指導の検証をして改善に活かす。</li> <li>・全ての計画に、短期目標「合言葉」を実践する内容を意図的に取り入れる。</li> <li>・生徒指導部を中心とする、問題事象の組織的解決の仕組みを定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 企画委員会を毎月開催とし、児童実態に即した指導目標の共有化を図った。気になる事象の減少につながり全校的に落ち着いてきた。</li> <li>○ 生徒指導部長を中心とした組織的な対応が迅速に行えるようになり、学校としての方針に基づく指導が通るようになった。</li> <li>△ 児童課題に敏感に反応できる教職員の判断力を高めなければならない。</li> </ul>

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・網野学園家庭編に基づく取組を、他校と連携し進める。</li> <li>・健康の保持増進と体力の向上を図る。</li> <li>・安全への実践的態度の育成を図る。</li> <li>・食育の推進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・網野学園「これだけは(家庭編)」に基づき、PTAに働きかけ、家庭と連携した取組を進める。</li> <li>・朝の体力づくりの更なる充実を目指し、意欲を高める取組を進める。</li> <li>・日々の生活・活動を通して「安全」を考えさせ、実践させる場面を作る。</li> <li>・実態に合わせた指導を工夫し、食に関する学習意欲を高める。</li> </ul>	<p>○朝の体力づくりは計画的にマラソンや縄跳びを取り入れることにより、児童が個々の目標を持ちながら意欲的に取り組んでいる。</p> <p>○年間3回実施した生活点検では、家庭の協力もあり、児童が自分の生活を振り返り、より良くしようという意識を高めることができた。</p> <p>△校内での安全な生活は指導を続けているが、廊下歩行など徹底できない課題が残っている。</p>
小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・網野学園の組織運営を安定化させ、効果的な指導を進める。</li> <li>・網野学園各部会の研修を基に、自校の研修充実を図る。</li> <li>・生徒会、児童会連携を計画的に進め、実践的態度を育てる。</li> <li>・保小連携を進め、円滑な接続を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年部会の授業研究を中心としながら、指導力向上の研修を進める。</li> <li>・学園推進会議の方針を受けて自校実践を高める。</li> <li>・小中の児童会・生徒会の連携を計画的に推進し、自らが主体的に活動する場面を作る。</li> <li>・児童生徒(幼児)の交流を更に大切にする。</li> </ul>	<p>○中学校と連携した取組で中学生の姿に刺激を受けた6年生が、児童会活動を通じて下級生に伝える場面があった。</p> <p>○網野学園学力向上プログラムに沿ってドリル学習を進めることができた。学年末DRTでは算数の技能で正答率が全学年80パーセントを越えた。</p> <p>△保小連携で、保育所からの参観はあったが、小学校からのアプローチが十分ではなかった。</p>
特色ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語活動指導力の向上を図る。</li> <li>・豊かな体験を基にした国際理解教育実践を推進する。</li> <li>・「琴引き浜」をテーマとして、積極的に地域に学習の成果を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンチェスター・メモリアル小学校との交流を年間計画に位置付けて、計画的に進めていく。</li> <li>・全校的な取組にすることで、外国語(英語)に接する機会を増やし、異文化体験を豊かにする。</li> <li>・「琴引き浜」学習を通して、地域の方々に「教えていただく」、「発信する」機会を積極的に設ける。</li> </ul>	<p>○マンチェスター・メモリアル小学校との交流は計画的に進み、日常的なメール交換が可能になった。</p> <p>○学習発表会で地域を題材とした学年発表を多く取り入れ、保護者や地域に対して発信することができた。</p> <p>○海岸清掃や白砂青松を守る取組への参加を通して、児童は「琴引き浜」や地域の自然に対して高い関心を持つことができた。</p>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害傾向の児童に対して、組織的な取組を進めるとともに、児童理解の力量を高める。</li> <li>・就学指導の充実を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に配慮の必要な児童に対して、ケース会議を設置し組織的な対応をする。</li> <li>・配慮の必要な児童保護者と学校が丁寧な懇談をし、指導の充実を目指す。</li> <li>・適切な就学指導を進め、該当保護者の理解を得られる取組を進める。</li> </ul>	<p>○特別支援教育を校内研修に取り入れ、日常的な指導に取り入れることができた。校内体制が確立しつつあり、児童の状況に応じた指導により改善が見られる。</p> <p>△保護者に理解を求める取組はようやく具体的に進み始めた段階で、今後も継続して行う必要がある。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>網野学園としての取組は、評価と改善を積み上げながら本校の教育実践とリンクしてきている。保幼小中との連携を図りながら、自校だけではできない学習や活動を積極的に仕組んでいく。個々の課題に対応した特別支援教育の充実が緊急課題となる。特別支援教育コーディネーターを核とした組織体制を確立し、就学指導を含めた計画的な進行管理を行う。外国語活動研究を軸として、全ての教職員が参加できる研究体制づくりを行う。児童に付けたい力を教職員が共有し、日常的な実践を大切にして積み上げていく。</p>		

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立橋小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 あ：明るく元気に進んで学ぶ子（知） み：みんななかよく支え合う子（徳） の：のびのび生き生きやりぬく子（体） ＊「たくましく 力と心を合わせ はきはき 何でも進んで取り組む学校」～元気・笑顔・挑戦～ の具現化を目指す。</p>		<p>○網野学園小中一貫教育：「これだけは！」で目指す児童に付けねばならない力に視点を当て、授業作り、生活習慣の確立、家庭への働きかけ等、教育活動に波及させてことで、課題解決の取組を推進する事が出来た。</p> <p>○様々な行事、学校生活の機会を通じ、苦手なことにも果敢に「挑戦」していく児童の意欲的な姿が多く見られた。</p> <p>○学力充実月間、家庭学習頑張り週間等を設定し、家庭との連携のもとに学習習慣の定着を図ることができた。</p> <p>△廊下歩行、トイレのスリッパを揃える、等のマナーとルールの徹底の面で課題が残った。</p>	<p>・児童の元気と笑顔があふれ、様々なことに挑戦する姿を目指し「たくましく 力と心を合わせ はきはき 何でも進んで取り組む学校」の具現化を目指す。 た：たくましく…たくましい心と体で最後までやり抜く力を付ける。 ち：力と心を合わせて…学級の仲間と共に力と心を合わせ、様々なことに取り組む。 ば：はきはきと…自分の考えや思いをはきはきと自信をもって伝える力を育成する。 な：何でも進んで取り組む…主体的に学び、自らの目標に向かって挑戦する。</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<p>(1)学力の充実・向上を目指し、適切な教育課程の進行管理を図る。</p> <p>(2)各教科に言語活動を適切に位置付け、児童の思考力・判断力・表現力を育む。</p> <p>(3)主体的な学びを育むための指導法を研究し、教師の授業力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲の向上、基礎学力の定着を図るための授業改善の取組を研究推進部・学力充実部を中心に進める。</li> <li>・重点研究の「ことば、文学」の取組を組織的に行い、児童の言語能力、表現力の育成を図る。</li> <li>・学力充実月間、家庭学習がんばり週間、校内授業強化月間等を設定し、若手を含む教員の指導力アップを目指す。</li> <li>・総合的な学習の時間、生活科をはじめとし、探究活動、主体的に学ぶ機会を充実させ課題解決能力を育む。</li> <li>・放課後補習、漢字検定に全学年で取り組む。</li> </ul>	<p>○どの学年も各教科において言語活動が組み込まれたペア・グループでの話し合い活動、意見発表などを行い言語力育成を目指すことができた。</p> <p>○全校で統一した取組をドリル時間等を行い、計算力、語彙力、漢字力等の定着を図ることができた。全校に実施した校内版漢字検定は合格者が93%と高い定着に繋がった。</p> <p>△日常的に隣接学年で教材研究、授業法等についての相談や協議を行い、授業力を高める必要がある。</p>
生徒指導	<p>(1)人権尊重の観点立ち、いじめや差別を許さない人権感覚と人権認識を培う。</p> <p>(2)あたり前のことが当たり前にできる力、規範意識の醸成を図る。</p> <p>(3)いじめ、不登校等の解消に向けた教育相談を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢活動を通して、他と調和できる力、体や命を大切にできる力を育む。</li> <li>・日常の出来事を教材化し、思考力・判断力・規範意識、あたり前のことが当たり前にできる力を育てる。</li> <li>・定例の教育相談部会、生徒指導部会等を充実させ、関係機関との連携を踏まえた取組を推進する。</li> </ul>	<p>○異年齢活動や児童会の取組を通して、全校児童が力を合わせて一生懸命に様々な行事に取り組む事ができた。全校の絆が深まり、異年齢での仲も良い。</p> <p>○生徒指導部が月目標を設定し、具体的な学年目標に落とし込むことで規範意識の向上が図れた。</p> <p>○△要配慮児童等の教育相談を外部機関も活用し積極的に行う等、早期対応ができた。引き続き共通理解のもとに進める必要がある。</p>

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)体力作りを通して何事も最後までやり通す粘り強い心を育てる。</li> <li>(2)自分や友達の体と命を大切にする児童の育成に努める。</li> <li>(3)きびきびした行動様式、場に応じた行動様式を身に付けさせる。</li> <li>(4)児童の危機回避能力を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通した体力作りを進め、児童の体力と最後までやり抜く強い心を育てる。(朝マラソン、朝縄跳び)</li> <li>・全校児童が登校できた日「100日」を目指す。</li> <li>・PTAと連携を図り『家庭力アップで学力アップ！』の目標のもとに基本的生活習慣を確立させる。</li> <li>・他機関との連携により健康や安全への意識を高める。避難訓練、防犯訓練、薬物乱用防止教室等を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝マラソン、朝縄跳びを通して継続する事の大切さや根気強さと共に体力作りができた。</li> <li>○計画的に様々な状況を想定した避難訓練を行う事ができ、不測の事態に備える大切さが浸透した。</li> <li>○行事と日常の生活を連動させ、きびきびとしたけじめある行動がとれるようになってきた。</li> <li>○△少しのことで休む傾向はぐんと減ったが、「欠席0」の日は2月末で63日と達成は厳しい。</li> </ul>
小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)網野学園小中一貫教育の取組を課題解決への手法に活かす。何を大事に取り組むのかを教職員が共通理解し、組織的に取組を進める。</li> <li>(2)児童生徒間の行動連携に留まらず学年会等の横の繋がりを指導力の向上に活かしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ことば・文学」を重点研究とし、具体的な実践を追求していくことで教師の授業力向上を図る。全校的な取組とリンクさせ環境面からも児童に思考力、言語力をつける。</li> <li>・「これだけは！授業編」を各教科の指導場面で活用する。</li> <li>・学園の学年会と、本校のグループ研での学びをリンクさせ、教材研究、指導法の幅を広げる機会としていく。</li> <li>・中学校に繋がる「学力」を意識した授業改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科：説明文を中心に教材研究を進め、学園内の公開授業に臨み指導法を発信した。</li> <li>○「家庭学習頑張り週間」「学力充実月間」等を活用し校内の取組を強化した。児童・家庭の意識を高めることに繋がった。家庭学習目標時間達成90%→92%→97%</li> <li>○中学校に繋がる学力として小6や小4の学習内容の定着をより強く意識した取組を進めることができた。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)特別支援学級設立に伴う理解教育を丁寧に行うと共に、個々のニーズに応える授業作りとユニバーサルデザインの視点を取り入れた教育の充実に努める。</li> <li>(2)通常学級に在籍する支援の必要な児童への適切な支援を組織的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境、教材教具、授業展開を工夫する。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターを中心にS・Sとの支援会議を定例化し、配慮を要する児童の実態を共通理解した上で校内の動きを構築していく。</li> <li>・他機関との連携のもとに個別のニーズに対応できる支援を追求する。</li> <li>・学校と保護者との連携のもとに、教育支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援学級を中心にユニバーサルデザインの授業を展開した。学びやすさが児童の意欲に結びつき、基礎的な学力の定着を図ることができた。</li> <li>○支援会議を定例化し、個のニーズに応じた支援の在り方をSSと確認しながら進めた。組織化が図れた。</li> <li>○巡回相談等を活用し、個のニーズに応じた指導法を検討しながら丁寧な教育活動を進めることができた。</li> <li>△理解教育のもとに、さらに個に応じた支援に努める。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)心身ともに健全な児童を育てるために学校・保護者・地域が一体となった教育活動を展開する。</li> <li>(2)地域・保護者に対して学校の情報を積極的に発信する。</li> <li>(3)教育アンケートを学校のPDC Aサイクルに反映させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより、学校HP等を活用した積極的な情報発信を工夫する。</li> <li>・地域に根差した教育の展開や丹後学を重視し地域の資源や人材を活用する。地域に誇りがもてる児童を育成する。</li> <li>・保護者・地域の思いを教育活動に反映させる。</li> <li>・児童・保護者アンケートを年間2回実施し、学校改善の取組に活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○PTAの役員数や活動の見直しを行った。全会員の参画意識により、行事に対する理解と協力が多く得られた。</li> <li>○保護者アンケートは17項目中15項目が90%以上、2項目も89%の肯定的評価と学校教育の理解が得られた。</li> <li>△地域教材、地域の人材をもっと活用し、地域に対する郷土愛、愛着の心をさらに育んでいきたい。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<p>網野学園が目指す教育目標、子ども像の具現化を本校の課題克服とリンクさせた学校経営を行い、「規範意識の醸成」をさらに進め、落ち着いた学習環境の中で児童の学ぶ力を育み、基礎学力の定着をはじめとする生きる力の充実を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 小中一貫教育の手法のもとに教師の授業力を高め、児童の基礎的な学力の定着を図る。C層をB層へ、B層からA層への引き上げに努める。</li> <li>2 家庭と連携し、生活習慣の確立と学習の習慣化を図る。次年度もPTA目標である「家庭力アップで学び力アップ！」を共に目指す。</li> </ol>		

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立豊栄小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて生きる子どもの育成」丹後中学校区学校教育目標の具現化を図るために学校づくりを進める。 ・「学ぶ意欲があふれる学校」をテーマに学習の楽しさを実感させ確かな学力を定着させる。その学びを活かし、考え方や見方を広げ人間的豊かな社会性を身に付けていく教育を行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○「图画工作科」の研究協力校として、児童と教職員とで内容のある本発表を実施することができた。</li> <li>○学習環境づくりを行うことが学習意欲に繋がった            △言語活動や自己有用感を醸成する取組に力を入れる。            △一人一人の児童の基礎学力定着を図る。            △小中一貫教育の取組と関連させた家庭学習習慣を確立させる。</li> </ul>	<p>めざす児童像の具現化に向け、全職員が参画した組織的な教育活動を推進していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後中学校区（小中一貫教育）と関連付けた研究を積み上げ、授業実践力の向上と改善に努める。</li> <li>・児童同士が喜びを共感し合う学級づくりを進める。</li> <li>・行事や取組を通しながら自分や友達を大切にできる温かい人間関係を作る。</li> <li>・気付いたことは、報告・連絡・相談・確認ができる教職員集団を目指す。</li> </ul>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽しい学習体験を味わわせる。(学力・授業力の向上)            ・言語活動を重視した授業改善と学習内容の定着を目指すとともに活用していく力を伸ばす。(表現力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校全体で学校課題の整理を行い、指導の共通化を図る。            ・意欲を引き出す指導、学力の向上に繋がる指導を徹底する。(授業研究・公開授業)            ・各学年が学習課題の考察をもとに回復指導を行うとともに、丹後学園の取組と関連付け、保護者と協力して家庭学習の環境づくりを進める。            ・丹後学園と連携して言語活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○丹後学園研究主題と本校の研究を兼ね合わせて進め、他教科にも取り入れられた。</li> <li>○全校体制で課題領域の克服や基礎学力の底上げに向けた取組を考え行った。(ドリル等)</li> <li>○丹後学園の取組と校内の取組を関連付けることが学習意欲を引き出すことへと繋がった。</li> <li>△「長文を読む力・考えをまとめて書く力・発言する力」の向上を目指す。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○認め合いや児童の自尊感情を重視した生徒指導を進める。            ・学校生活のルールや約束を守り人間関係づくりを進める取組の実施            (いじめ・不登校への対応)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童と教師が一体となって、よい学習環境づくりを目指した取組を進める。            ・人権的な視点を基盤にした学級経営と諸活動を通して、児童の主体性やリーダー性を育成する。            ・支援を要する児童への個別指導を丁寧に行う。            (教育相談の充実、欠席状況の把握、諸機関との連携)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○配慮を要する児童への組織的な対応を進めることで安定した学級経営が行えた。</li> <li>○異年齢活動を行事や取組に取り入れて児童の居場所づくりを行ったことで、学校での人間関係が安定してきた。</li> <li>○関係諸機関と連携することで課題克服に向けての状況把握や取組の共有化につなげることができた。</li> <li>△気になる児童の記録を残し、中学校へ繋ぐ。</li> </ul>

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭と連携し、健康で安全な生活を営む実践力を育てる。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育指導や体力つくり、基本的生活リズムを定着させる取組</li> <li>・避難訓練・事故防止・防犯指導等の実施</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常的な活動、保健だよりや給食だより・学級だより等を活用しながら健康意識を育てる。</li> <li>・体力つくり、生活リズムや食育指導等を中心とした学級指導の徹底</li> <li>・よりよい生活環境を目指し、家庭に支援を呼び掛ける。(学習の手引き、家庭学習頑張り週間、生活リズムの見直し、いじめアンケート、人権アンケート等の取組)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自転車教室の実施、にこにこカーでの見回り、地域からの情報をもとに、交通安全に対する意識も高まった。</li> <li>○よりよい生活環境づくりの取組を目指したことで、保護者の協力が得られた。</li> <li>△非行防止教室・情報機器の使用状況等について学ぶことはできたが、保護者への啓発が更に必要である。</li> </ul>
小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「夢と希望と創造性のあふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」という丹後中学校区の教育目標と関連づけ、本校の取組を具現化していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「主体的な学び」～言語活動の充実を通して～を目指し、保幼小中学校の連携を図るとともに教職員の指導力の向上を目指す。</li> <li>・丹後中学校区の学園経営方針・学園指導の重点に対応した行動や取組・連携等、教育内容の充実に努める。(保幼小中連携による授業研究・実践交流、土曜活用事業、小小連携を基本とした合同行事等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○合同体験学習や合同修学旅行、中学校への行事参加等、保小・小中・小小連携を行うことで学習内容の広がりが見られた。</li> <li>○校内だけではなく丹後学園としての学習や研究が進み始めた。</li> <li>△保幼小中の教職員が参観等を行い交流し、児童・生徒の実態を更にていねいにつかむ。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の自然や文化を大切にする視点を基本に学習を進め、情報を発信する。(保護者や地域との協力・連携強化)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土を愛する気持ちを育む教育活動を実践する。(地域素材・人材との出会い、読み聞かせ、総合的な学習の時間・食育の取組、特色ある学校・児童会行事等)</li> <li>・学校だより・学級だより、学習発表会、授業参観等を通して、丁寧な情報発信を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な行事や取組参観を呼び掛けたことで、児童の様子を知ってもらうことができた。</li> <li>○地域の方の協力で体験・見学を行い地域のよさが再認識できた。今後も地域との協力・連携を推進する。</li> <li>△学校便り・学級通信・ホームページ等で更に発信する。</li> </ul>
研修（資質向上の取組）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童に確かな学力と自己表現力を身につけさせるために基礎・基本（学力）の定着と言語活動（コミュニケーション能力含む）を重視した楽しく学べる授業実践の充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の専門性、指導力の向上を図る研修を実施する。(お互いに学び合える場を設定する)</li> <li>・教職員自らがコミュニケーション能力を身に付ける。</li> <li>・外部研修に積極的参加し、表現力の向上を図るために研修で学んだことを伝達・共有するとともに、実践へとつなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○センター研修や府・局・市・丹後学園の担任会等を通して指導方法を学ぶことができ、そのことが児童の学習意欲を高めることに繋がった。</li> <li>△外部講師の招聘、校内研修を通し学んだことを他教科に広げ、児童の言語活動（表現力）の向上に向けた取組を更に行う。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後学園の研究主題「主体的な学び」を通して、「算数・数学」の授業づくりの研究を進め児童の基礎学力の向上と言語活動の充実・向上に努める。</li> <li>・丹後学園としての取組を通して更に開かれた学校づくりを推進する。</li> <li>・学校評価「学校の施設・設備、教育環境」「信頼される学校」等について、保護者・地域に協力を求め、連携しながら進めていく。</li> <li>・平成31年度の再配置に向けて間人小学校と一緒に教育計画案づくりや交流等、できることを次年度から進めていく。</li> </ul>		

(別紙様式1)

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立間人小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 人権感覚を磨き、人を思いやる心を育てる。 2 読み書き、話す、計算する基本的な力を身に付ける。 3 規範意識を高め、安全安心な学校生活をさせる。 4 保護者、地域と連携・協働し信頼関係を築く。		1 ○学校から子どもの学校生活の様子をHPやたより、懇談会等により情報発信できた。 ○保護者、地域の協力を得て、全児童が元気に登校できた。 2 △説得力のある文面を作成し、思いを適切に表現するところまでは至っていない。 △取組の成果を学校生活に生かす継続した指導が必要である。	1 学習したことを実生活に生かすために基礎学力の定着を徹底する。 2 集団生活の中で自立する力の基盤を身に付ける指導の工夫・改善を図る。 3 保・幼・小・中学校と連携し、中学校卒業時の姿を想定した指導を充実させる。 4 教職員全体で情報を共有化し、保護者・地域との連携・協働を深める。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	・授業の中で学習の具体的なねらいを設定し、わかる・できた喜びを実感させ、学力の定着を図る。	・ねらいの達成を検証し、授業改善を行う。 ・外部人材を活用し、興味関心を生かした学習を行う。 ・読書活動の推進に向けた取組を実践する。	○基礎基本を定着させる学習が、全校で取り組むことができた。自主学習ができる児童が増えた。 ○外部講師による授業は、興味関心を高め、今後の生き方につながる学びとなった。 △学習の定着を詳細に検証し、課題分析して授業づくりにつなげる。 △読むことの大切さと楽しさを実感させる。
生徒指導	・教育活動全体をとおして人権意識を高めさせる。 ・いじめ、不登校の未然防止及び解消にむけた教育相談活動を充実させる。	・生徒指導の3機能を生かした指導をもとに、面談を重視することで情報を共有しあい、組織的な対応を行う。 ・チームでの活動をとおして、自主的・自律的に行行動できる力をつける。	○異年齢の活動をとおして、高学年はリーダーとしての意識が高まり、低学年への配慮ができた。 ○個人面談等により、児童の把握に努めた。 △友達の意見を傾聴し、自ら判断する力と子ども同士で解決できる力の育成をめざす。 △集団生活での心得や思いやる心の育成は低学年から徹底する必要がある。

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けが予防及び体ほぐしを行い体力の向上を図る。</li> <li>・自己健康管理能力を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サークルトレーニングを継続する。</li> <li>・日常の健康観察、起床時間、朝食、就寝時間等の点検、取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業開始前の準備ができ、怪我も少なく、安全な学校生活ができるようになった。</li> <li>○家庭の支援により、基本的な生活習慣が身につき遅刻することなく登校できた。</li> <li>△校外でもけが予防や安全な行動ができるよう指導の継続が必要である。</li> <li>△就寝時刻を早くし、意欲的な学習につなげる。</li> </ul>
小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保幼小中の円滑な接続を意識した教育活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の共有化を行い、学力向上につながる取組を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○合同行事や授業により小小連携が進んだ。その他校種を越えて連携を行うことが、より良い接続へ繋がることを学ぶ機会となった。</li> <li>△合同研修会を充実させ、保幼小中の教職員の相互理解を深める。</li> </ul>
危機管理	<p>3つの安全（生活・交通・災害）</p> <p>*安心安全な学校生活ができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援ボランティアとの連携により安全な登校につなげる。</li> <li>・校内外の危険箇所点検を行い、適宜、修繕や報告を行い教育環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援ボランティアとの連携により児童の把握ができた。また、毎朝の登校が安全にできた。</li> <li>○敷地内の危険箇所の改善ができた。（門扉の活用、注意喚起の看板設置）</li> <li>△災害を想定した迅速な対応ができるマニュアルの見直しが必要である。</li> <li>△保護者への情報モラルに関わる啓発、情報提供を継続して行う。</li> </ul>
研修（資質向上の取組）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・責任を果たすべく指導力量を身に付け、子どもや保護者、地域から信頼を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修を充実させる。（授業研究、職場人権研修、生徒指導、服務規律等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育公務員としての任務の遂行、社会人としての心がけ、マナーについて研修を進めた。（法やルールに関する教育、心がけのススメの活用、人権教育、復講習）</li> <li>△児童のとらえ方や指導方法の未熟さにより保護者から信頼を損なう学級経営も見られた。</li> <li>△教師の専門性はもちろんこと、社会人としての良識ある言動や子どもの内面に迫る指導力の育成に全力を挙げていく必要がある。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<p>◎心と体を鍛え未来を拓く基盤づくりをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 基礎学力・体力の向上、読書活動の推進</li> <li>2 教育活動を通じて法やルールを学ぶ</li> <li>3 思いやる心、自尊感情、自己有用感の育成</li> </ol>		

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立宇川小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 夢と希望と創造性あふれる豊かな心をもち、未来に向けて主体的に生きる子どもを育成する。 2 宇川の地を愛し、地域の未来を広げる力をつけた、主体性ある児童を育てる。		<p>○家庭学習の習慣化に関する取組の充実により、宿題を確実にやり切る児童が増えた。</p> <p>○学校不適応を示す児童に対して組織的・継続的に取り組み、改善傾向が見られた。</p> <p>△授業改善の必要な学級があり、どの授業でも言語活動が充実しているとは言い切れない。</p> <p>△知的な刺激や緊張感・役立ち感を児童に与える指導や教育活動が少ない。児童のたくましさと主体性を育てたい。</p>	<p>1 目指す児童像の実現にむけて、「まなび・こころ・からだ(生活)」の3視点を設定し、各組織を機能させることにより教育活動を展開する。</p> <p>2 児童が活躍している学校生活をつくる中で、主体性を育てる指導を教育活動全体で展開する。</p> <p>3 小規模校の特性を踏まえながら、地域との連携を図り、宇川の地に対する児童の興味・関心を高める。</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<p>1 授業における児童の主体性を追究しながら、主体的・意欲的に学習する指導を研究実践する。</p> <p>2 言語活動の充実を視点に思考・判断・表現する学習活動を充実させ、基礎的・基本的学習内容の確実な習得及び活用を図る。</p>	<p>1 算数科において授業における指導の在り方を研究し、考える時間、書く活動、話合いの場等の効果的な設置や指導等を追究する。</p> <p>2 児童一人一人の学力課題を分析し、個の課題に応じた指導を継続して行う。</p> <p>3 ドリル学習の時間、放課後、長期休業中、土曜活用時に補習や補充学習を実施する。</p> <p>4 家庭学習の習慣化の取組により、家庭と連携して家庭学習の充実・向上を図る。</p>	<p>△授業研究は計画どおり行ったが、児童の主体性はもっと確かなものにしたい。教育活動全体でさらに研究しながら児童の主体性を育てたい。</p> <p>○学力診断テストなどの結果分析を活用し、ドリルタイムや補習での回復指導を行った。複数の教員で指導し、より個に応じて指導した。</p> <p>○家庭の協力により家庭学習の取組が一層充実した。家庭学習の点検項目達成率は、「目標時間」99%、「丁寧な字を書く」97%等ほとんどが90%以上の好結果となった。</p>
生徒指導	<p>1 児童の学校生活の状況や課題を的確に把握し、児童自らが課題を解決しようとする実践力を育てるとともに、個に応じた適切な教育相談活動を行う。</p> <p>2 規範意識の醸成を図り、いじめ・非行の未然防止に努める。</p>	<p>1 児童の状況を日常的に把握し、生徒指導上の問題・課題の早期発見・早期対応に努める。</p> <p>2 あいさつや基本的生活習慣の確立を図る指導を充実させる。</p> <p>3 生活目標設定により、指導課題を明確にして指導する。</p> <p>4 不登校傾向や不適応等個々の課題について、組織的・計画的に相談活動を進める。</p>	<p>△生徒指導上の問題はおおよそ早期に対応したが、家庭・地域から連絡を受けて対応したものもあった。早期発見に努め、早期対応を今後もしていきたい。</p> <p>○ほぼ全員の児童が、自分から朝のあいさつができるようになってきた。</p> <p>○生活目標達成のための努力点や結果を全校児童で共有し、児童に達成感・有用感を味わわせることができた。</p> <p>○不登校傾向やいじめ防止等については、早めに組織的に対応した。いじめは、第1段階で全て解消している。日頃の相談活動や心の声の把握も継続したい。</p>

健康（体育）・安全	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童の健やかな生活づくりや健康の保持増進への関心と実践意欲を高める。</li> <li>2 児童の安全に関する知識を養い、判断力や行動力を育てる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 体育の授業や年間を通した体力づくりの取組を設定し、長期的な視点で体力向上を図る。</li> <li>2 避難訓練、防災学習、交通安全教室等の安全に関する指導を充実させ、児童が自己の命を守るために力を育てる。</li> <li>3 登校時の指導や付き添い下校により、交通安全指導を徹底する。</li> </ol>	<p>○朝マラソン、縄跳び、おにごっこ等バリエーションのある朝の体力づくりを年間通してほぼ毎日行った。校内マラソン大会や駅伝競走大会でも好結果が見られた。</p> <p>△校内での小さなけがが続いた。児童の危険予想能力は、さらに高める必要がある。</p> <p>○強風時や道路工事期間にも付き添い下校や立ち番等、登下校時の指導を丁寧にした。今後も、暴風時・積雪時を含め、登下校については、安全指導を徹底したい。</p>
小中一貫教育の推進	保幼小連携・小小連携・小中連携により、中学校区のカリキュラム等に基づいて小中一貫教育を実施する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業研究において指導方法を研究し、指導に生かす。</li> <li>2 目指す児童像を具体化しながら教育活動を行う。</li> <li>3 「丹後学」のカリキュラムを実践し、検証する。</li> </ol>	<p>△丹後学園で研究したことを日頃の授業や校内での授業研究に活用することは、もっと必要であった。</p> <p>○目指す児童像の具体化を意識した教育活動が見られるようになってきた。小小間、保小間の連携も強くなった。</p> <p>△通例や前年度踏襲であったり、目指す児童像の具体化の視点がなかったりした教育活動もあった。行事・取組の精選と組織運営の見直しも含め一層の改善を図りたい。</p> <p>○「丹後学」のカリキュラムを見直し、地域を学び、地域との連携を強める内容に改めた。第3学年以上で積極的に校外学習・体験学習ができる、地域の学びが増えた。</p>
特別支援教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校全体で特別支援教育を進め、授業のユニバーサルデザイン化、児童の自立を促す指導・支援を実施する。</li> <li>2 障害の状態や個の特性に応じた指導・支援を計画的・組織的に研究実践する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個別の指導計画、個別の支援計画等に基づき、保護者と連携しながら個々の教育的ニーズに応じた指導・支援を行う。</li> <li>2 特別支援学級における特別支援教育の在り方及び個の特性に応じた指導や授業のあり方等について中学校区や校内の研修会により学ぶ。</li> </ol>	<p>○計画と指導と評価のサイクルで個の教育的ニーズに合うように努めた。対象児童は徐々に力を伸ばし、できることを増やし、できないことを減らすことができた。</p> <p>○特別支援学級の研修会や丹後学園の研修会により教員が研修できた。個の特性に応じた指導の重要性と必要性を確かめ、そのあり方を探ることができた。</p>
開かれた学校づくり	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域の題材等を教育活動に積極的に取り入れ、地域との連携をつくる。</li> <li>2 教育活動を地域や保護者に公開し、本校の教育について理解を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域の施設、人材等の活用を指導計画に組み入れ、学習活動や体験活動の充実を図る。</li> <li>2 教育活動の様子を保護者や民生児童委員、学校評議員等に公開し、感想を集める。</li> <li>3 各種のたよりやホームページ等を用いて、学校の教育活動を情報発信する。</li> </ol>	<p>○地域の施設の見学や地域題材の活用が増えた。地域の協力も得られ、児童はとてもよい学習と経験をした。</p> <p>△ホームページへのアップは増えたが、一部の発信に偏りがあり、量・質とも不十分だった。今後は、量を増やすところから努力したい。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 へき地・小規模校教育の研究を前面に出して充実させ、家庭・地域との連携を強化しながら主体性の育成を目指して授業改善を図る。</li> <li>2 自他を大切にする心を醸成しながら、コミュニケーション能力を養う。</li> <li>3 挑戦・競争・楽しさがある体力づくりを継続的に取り組み、身体を鍛える方向からも児童のたくましさを育てる。</li> <li>4 情報発信の方法を工夫改善し、本校の教育活動についての理解を図る。</li> </ol>		

(別紙様式1)

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立吉野小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
小中一貫モデルカリキュラムの活用を図り、地域の特色を生かした教育課程の編成を行い、日常の教育活動を充実させていくことで、児童が安心して主体的に学び、活動できる学校づくりと保護者・地域、関係機関との連携を大切にし、保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。		<p>○目指す授業の共有化が進み、基礎学力の定着・向上が図られた。日常における授業改善や授業実践充実の意識が高まってきた。</p> <p>○組織的・協働的な運営の意識が高まってきた。</p> <p>△基礎学力の充実、学習意欲の向上に向けた取組と豊かな心の育成に向けた取組を家庭と連携して進める。</p> <p>△信頼される学校づくりと特色ある学校づくりの充実のためにも、保護者・地域との連携をさらに深める。</p>	<p>1 基礎・基本の確実な習得と思考力・判断力・表現力の充実を図る授業づくりと学級づくりの推進</p> <p>2 豊かな人間性をはぐくむ「心の教育」の推進</p> <p>3 家庭・地域との連携を深め、信頼される学校づくり、特色ある学校づくりの推進</p> <p>4 校種間の取組や連携を通して、就学前から中学校卒業までを見通した弥栄学園小中一貫教育の推進</p>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	<p>重要な学校課題である学力の充実、向上を図る取組を推進する。</p> <p>1 学習内容の定着に向けた取組を進める。</p> <p>2 授業実践力、指導力を向上させる取組を行う。</p> <p>3 相手を意識した表現力、コミュニケーション能力の育成を図る。</p>	<p>1 基礎的な学習内容の定着に向けた取組を行う。</p> <p>(1) 個々や学級の児童の学力課題を明らかにし、きめ細かな指導を継続的に行う。</p> <p>(2) ねらいを明確にし、わかりやすい授業を進める。 (ユニバーサルデザインの授業づくりを進める。)</p> <p>(3) 繰り返し学習の内容と方法を工夫する。(チャレンジタイム、補充学習等)</p> <p>(4) 各学期に1回以上、全校的な取組である学習指導強化月間を設定し、児童への指導や学力向上の取組を進める。また、家庭学習においても、弥栄学園の取組と連動させ、家庭学習強化週間等の取組を推進する。</p> <p>2 学習指導力、授業実践力の向上に向けた取組を進める。</p> <p>(1) 重点教科である国語科の授業研究を通し、教師の指導力、授業実践力を向上させる。</p> <p>(2) 出前講座の活用や様々な研修の場を設定し、指導力の向上を図る。</p> <p>3 教科や行事等の全ての教育活動を通して、表現力、コミュニケーション能力を育成する。特に、今年度は表現力の「書くこと」に重点を置いた指導に取り組む。</p>	<p>○個々や学級の学力課題を分析し、少人数のよさや実態に応じた授業づくりを進めることができ、学習の規律や態度とともに、意欲的に学習を進めようとする児童が増えてきている。</p> <p>○繰り返し学習を学校支援ボランティア、小中連携加配による学習支援も取り入れながら継続した指導を行うことで、基礎的な学力の底上げにつながった。</p> <p>○重点教科の国語科を中心に教員の指導力向上のための研修や授業改善を図るために校内研修会の充実を図り、日々の授業改善や実践に活かすことができた。</p> <p>○弥栄学園の取組(授業づくりの手引き、家庭学習等)と連動させて、校内の研究や取組を推進し、授業改善を図ることができた。</p> <p>△個別課題、学級の実態に応じたきめ細かい指導を継続して行うことで一人一人の学力の向上を図る。</p> <p>△ユニバーサルデザインの授業づくりを意識して行い、児童に分かる授業、指導を工夫していく。</p> <p>△家庭等との連携を更に強化し、家庭学習の充実を図る。</p> <p>△弥栄学園の取組と連動させて、校内の取組を更に充実させる。</p>

生徒指導	1 良好的な人間関係づくりを行い、安定した学級経営を目指す。 2 人権意識や規範意識の高揚を図る。  3 いじめや不登校の未然防止に努める。	1 児童の実態を的確に把握・分析し、全体で情報を共有化しあうことで、組織的に迅速に対応できるようにする。 2 肯定的評価を基本とし、自己肯定感を育てる。また、法やルールに関する教育の継続した指導を通し、規範意識を高める。  3 児童の内面理解に努め、家庭への連絡を密にし、連携した取組を丁寧に迅速に進める。	○日常的な異年齢集団活動を通し、高学年のリーダー性の育成とともに学年を超えた良好な人間関係づくりに向けた取組を進め、全校の一体感が深まった。 ○法やルールに関する教育や様々な事象の教材化等を通して、規範意識の高揚や心の成長がはぐくまれ、不登校0につながった。 △児童一人一人の内面理解や状況把握をきめ細かく行い、家庭への丁寧で迅速な連絡、連携を強化していく。
健康（体育）・安全	1 健康な心と体づくりの取組を進める。  2 学校事故の未然防止と登下校の安全を確保する。	1 年間を通して朝の体力づくり（マラソン、縄跳び）を実施する。また、生活点検を毎学期実施し、生活習慣づくりを進める。  2 校内安全点検を実施し、安全な施設管理を行う。また、登下校の安全指導を徹底するとともに、PTAや地域のボランティア等と連携した取組を進める。	○年間を通して朝の体力づくりの取組を組織的に推進することができ、基礎的な体力が身に付いてきた。（マラソン、縄跳び） ○家庭と連携して毎学期生活点検を実施し、学期始めの生活習慣づくりを進めることができた。 ○ボランティアの方々と連携して安全な登下校ができる、事故0につながっている。 △安全や健康を守る意識を更に高める。
小中一貫教育の推進	就学前から中学校卒業までの10年間を見通した弥栄学園の小中一貫教育を推進する。	1 校種を超えた教職員の研修や学力、授業づくり、各部の取組を通し、教職員の実践力や資質向上を図る。 2 保育所、幼稚園、小、中学校との交流や研修を積極的に行い、連携を深め、指導の一貫性を図ることができるよう努める。	○全体研修会や各部会を通して、取組の推進や教職員の意識の高揚、実践力の向上を図ることができた。 ○合同行事や交流学習等を小中だけでなく、小小・保・幼・小の連携した取組として推進することができた。 △保・幼・小、小小の連携の取組を計画的に入れていく。
特別支援教育	特別な教育支援が必要な児童の個性や能力の伸長を図るために、個別の課題に応じた指導方法の改善や指導の充実を図る。	1 障害のある児童や保護者のニーズに合わせた支援が行えるよう、取組を進める。 2 個別の指導計画・支援計画等を活用し、本人や保護者との懇談を丁寧に行い、個々の合理的配慮を明確にしながら、個に応じた指導の推進を図る。	○家庭との連携を図り、障害のある児童や保護者のニーズに合わせた支援を考え、取組を進めることができた。 ○懇談を丁寧に行い、個々の合理的配慮を明確にして個に応じた指導の推進を図ることができた。 △実態に応じた指導の充実を図る。
特色のある学校づくり	本校や地域の伝統や文化を継承した取組を充実させる。	1 米作り、吉野フェスタ等、地域の豊富な資源や人材を活用した本校独自の取組を継続して取り組む。 2 日常の取組として行っている異年齢による集団活動（チームで行う給食や掃除等）をさらに充実させる。	○地域の資源や人材を活用し、伝統となっている米作りの取組を推進することができた。 ○異年齢集団活動を日常化し、人間関係づくりや異年齢による取組を充実させることができた。 △地域人材の発掘と活用、家庭や地域への発信を更に進める。
次年度に向けた改善の方向性	1 学力充実・向上に向け、日々の授業実践力の向上と個別指導を充実させ、習熟、定着を図る取組や家庭学習の習慣化を図る取組を進める。 2 児童一人一人の内面理解に努め、きめ細かな対応や指導を継続して行い、豊かな人間関係づくりと心の教育の充実を図る。 3 弥栄こども園、弥栄小学校との連携した取組を計画的に行なるとともに、弥栄学園としての小中一貫教育の推進を図る。 4 家庭・地域との連携を密にし、信頼される学校づくりと特色ある学校づくりを更に進める。		

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立弥栄小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
かしこく やさしく たくましく ～自主・自立～ (1) 言語活動の充実 (2) 自己肯定感の醸成		<ul style="list-style-type: none"> <li>○肯定的評価のある風土により、安定した学習環境の確立</li> <li>○小中一貫準備校として、組織運営の確立</li> <li>○地域協働による学校文化の創造</li> <li>△課題解決型の授業による基礎学力・活用力の育成</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学力の向上（授業づくり）</li> <li>2 学級経営の充実（学級づくり）</li> <li>3 教職員の資質向上</li> <li>4 信頼される学校づくり</li> <li>5 小中一貫教育（保小・小小・小中連携）の充実</li> </ol>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	1 学習規律の確立 2 言語活動の充実 「書く力」の育成 3 学び合える授業の構成 4 読書活動の充実 5 家庭学習の充実	1 弥栄学園「学びのルール」の徹底指導を行う。 2 全教科・領域の中で言語活動（特に「書くこと」）の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。 3 安心して学び合える学習環境の中で、少人数加配の活用や指導方法を工夫し学力を定着させる。 4 図書支援員活用やPTAと連携し、読書に親しませる。 5 弥栄学園「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の習慣化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習規律が身に付き、しっかり聞き・考えることができるようになったと、90%の児童が実感している。</li> <li>○全教育活動において言語活動（特に書くこと）の重視により、表現することに抵抗がなくなった。</li> <li>○全校的に漢字テストを繰り返し実施し、3学期初日のテストでは、全校平均点が95.3点となり成果があった。</li> <li>○△学力充実加配を活用し少人数授業の実施や指導方法を工夫したが、学力の定着はすぐに結果が出ていない。</li> <li>○家庭と連携した読書指導により、全校で1万冊読破は12月に達成し、さらに3学期には記録を伸ばせた。</li> <li>○弥栄学園共通家庭学習の取組により、家庭学習が習慣化し、宿題や間違い直し等をやり切る習慣が付いた。</li> <li>△様々な取組を駆使して実施しているが、個人差もあり、基礎学力及び活用力が定着したとは言い切れない。</li> <li>△今後さらに、全校体制で学習に関心を持たせる取組を通して学習意欲を向上させる必要がある。</li> </ul>
生徒指導	1 規範意識の醸成 2 人とつながる力の育成 3 自他を尊重する心の育成 4 気持のよい挨拶の励行 ・挨拶・お礼・返事 ・失敗を素直に認め教材化へ	1 全校児童が公平・公正に生活するためのルールやマナーを児童自身に考えさせ、守ることで規範意識を高める。 2 学級遊びや異年齢活動等を通して人間関係力を高める。 3 自他のよいところを見つけ合う事を習慣化させる。 4 PTA・地域と連携し、挨拶の心地よさを体得させる。「あいさつ・ありがとう ごめんなさい・返事」が素直に言える心をはぐくむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校のきまりやルールを守り、自分勝手な行動が減った。人間関係も良好となり、トラブルが激減した。</li> <li>○学級や異年齢での活動で遊びを意図的に仕組むことで、自発的に外で遊ぶ児童が増えた。</li> <li>○△「いいとこメガネ」「スマイルリーダー」の取組により、少し自尊感情が高まってきたが、意欲的に取り組める積極的な児童が増えたとは言い難い。</li> <li>△挨拶運動をPTAと連携し取り組んだが、声が小さい。</li> <li>○職員室へ入る時、名前と用件を言う等のマナ一面では、100%の児童ができるようになった。</li> </ul>

健康（体育）・安全	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 責任感の育成</li> <li>2 体力づくりの推進</li> <li>3 チャレンジ精神の育成</li> <li>4 生活習慣の確立</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 係りや当番活動、委員会活動で自分の役割は責任をもってやり遂げる力を育てる。</li> <li>2 マラソン・縄跳び等に目標を持って取り組ませる。</li> <li>3 「ほけんだより」による保健指導や、食に関する指導、生活点検の取組により、運動や栄養・睡眠が体に大切なものであることを指導する。</li> <li>4 PTAと連携し生活習慣を身に付ける為の取組を行う。</li> </ol>	<p>○高学年を中心とした児童会活動や委員会活動では、自主的な活動をさせることで、責任感が醸成できた。</p> <p>○98%の児童がマラソンや読書等、「自分の記録にチャレンジすることができた」と、満足している。</p> <p>△PTAと協力して早寝・早起き・朝ごはんに取り組んだが、家庭での生活には課題が残る。</p> <p>○挨拶運動は、毎月 PTAと共に取り組むことができた。</p> <p>△交通事故はなかったが、登下校中の不注意による怪我が多かった。注意力及び筋力に欠ける児童がいる。</p>
小中一貫教育の推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 共通指導内容の徹底</li> <li>2 系統的な授業スタイルの構築</li> <li>3 地域への発信</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 弥栄学園で、共通して指導する内容について、調整を図りながら徹底指導する。</li> <li>2 中学校を見据え、汽水域の一部教科担任制や、低学年からの系統的な授業スタイルを構築する。</li> <li>3 弥栄学園の教育活動を、地域へ広める広報活動を意図的に行い、保護者・地域からの協力を得る。</li> </ol>	<p>○弥栄学園の重点指導事項「考えて書くこと」を、全教科で徹底指導し、書くことに抵抗のない児童が増えた。</p> <p>○△教務・加配を中心に家庭科・理科を教科担任制とし、中学校スタイルに慣れさせたが、定着は未確定である。</p> <p>△PTA総会で、弥栄学園の児童生徒交流や教職員の合同研修会を紹介したが、取組の周知には至っていない。</p>
開かれた学校づくり	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校からの発信</li> <li>2 地域学習や丹後学の充実</li> <li>3 地域人材の積極的活用</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 弥栄学園や本校の教育活動を、保護者・地域へ発信し、理解と協力を求める。(学校だより全戸配布・HP等)</li> <li>2 広い校区の学習を積極的に取り入れ、ふるさとを愛する心情を育てる。</li> <li>3 地域の方々の人材活用により、児童と地域の方を結ぶだけでなく、学校が地域の核としての役割を担う。</li> </ol>	<p>○HPで教育活動をタイムリーに広報することで、理解が深まった。現在1日約500件程度のアクセスがある。</p> <p>○生活科や丹後学により、地域学習を積極的に進めることで、故郷の良さに気付く児童が増えた。</p> <p>○地域支援ボランティアの活用により、学習効果や指導力の向上だけでなく、学校が地域の核としての役目を果たし、弥栄小地区が活性化しつつあると思われる。</p>
特別支援教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 支援を要する児童理解</li> <li>2 障害のある児童の教育的ニーズに応じた指導の充実</li> <li>3 教育相談の充実による、不登校・いじめの未然防止</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 支援を要する全ての児童の理解に努めると共に、全児童の為にもユニバーサルデザインを意識した教室環境・授業を構築する。</li> <li>2 関係機関と連携し、個に応じた指導の研修を深める。</li> <li>3 全児童・全保護者が安心できる教育活動推進のために、教育相談機能を高める。</li> </ol>	<p>○発達障害を含む支援を要する児童理解や職員研修に努め、全学年でユニバーサルデザインを意識した学習環境や授業ができた。</p> <p>○支援学校や医療等の関係諸機関と連携すると共に、個に応じた指導方法について全教員が研修できた。</p> <p>○児童の変化を早期発見・早期対応できた。登校渋り傾向児童は、早目の保護者面談により不登校ゼロである。</p>
次年度に向けて改善方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校全体が落ち着き学習規律も定着してきたので、今後、全校体制で学力向上の取組をさらに進め、質の高い学力を身に付ける必要がある。</li> <li>2 自尊感情を高める取組を通し、学習意欲や積極性を身に付けさせたい。</li> <li>3 自他の身を守るために、危険予知能力を身に付けさせる必要がある。</li> <li>4 小中一貫教育の推進について、さらに研究を深める。</li> <li>5 教職員一同の協働体制をさらに強化する。</li> </ol>		

(別紙様式1)

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立久美浜小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
学校教育目標の達成に向け、校訓「一生懸命」を取り入れた教育活動を推進する。 1 質の高い学力につけるための学習指導及び学習環境整備を進める。 2 質の高い学力を培う基盤として、児童同士の好ましい友人関係の構築を一層進めるとともに、社会的なマナーの確立や規範意識の醸成を図る。		○算数科を中心に、図や絵にあらわしたり、根拠をもとに説明したりする指導を進め、児童の活用力が育成されてきている。 ○家庭学習の習慣化が図られてきている。 ○児童のリーダー性の高まりや友人関係の安定が図られ、落ち着いた学校生活が送られている。 △基礎学力の定着において児童の個人差が大きい。 △集団の中での個に応じた指導や一人一人に寄り添った指導の在り方について実践力の向上が必要である。	◎「すべては久美小の子どもの成長のために」 【要約】 1 基礎的・基本的な内容の確実な定着及び、根拠をもとに自分の考えを説明・表現する力を向上させる。 2 すべての教育活動の基盤として安心して学べる学級づくりを進める。 3 一人一人の個性や特性を理解し、個のニーズに応じた指導を進めることで、子どもたちの成長をはぐくみ、その姿から家庭・地域からの信頼を得る。
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程 学習指導	1 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための授業改善を進める。 2 話し合い活動を進めるための「聞くこと」「話すこと」の力を伸ばす。	1 1 単位時間で学習した内容を定着する時間を確保するための授業展開を考え、取り組む。 2 単元ごとの評価テストについて期間をおいて実施し、学習内容を複数回振り返る。 3 学年に応じた「理解して聞く」「話し合いの仕方」を身につけさせる。	○△学習内容を定着するための授業展開の必要性は共通確認できた。今後も工夫が必要である。 △学習内容の定着に向けた複数回のテストは時間確保の面でなかなか難しかった。 ○重点研究を通じて、学年に応じた「話し合いの仕方」を追求し、ペアやグループを活用した話し合いの方法について確認することができた。ペア学習等を活用した話し合い活動では、88%の児童が考えを進んで伝えていると答えている。
生徒指導	1 気持ちよく生活できるための必要なマナーやルールを考えて行動できる力、相手を思いやる心の育成を進める。 2 「いじめ」「不登校」等の諸課題に対し、未然防止に向け日常的な指導、相談活動を充実させるとともに、「心の教育」を推進する。	1 道徳時間や法やルールに関する教育の指定校としての取組を進め、授業や日常での指導の工夫を進める。 2 豊かな人間性をはぐくむため、児童会活動を通して異年齢活動を活発にする。 3 「いじめ」アンケートや日々の子どもの様子から変化を全教職員でつかみ、組織的に共通理解して早め早めに取り組む。	○△当たり前のことが当たり前にできるように日々の授業中の指導を丁寧に進めた。一方で法やルールに関する研究指定校としての取組は弱かった。 ○久美浜小学校の伝統ある異年齢活動は今年度も積極的に進め、心の成長など大きな成果が見られた。 ○アンケートとともに子どもの変化を丁寧に見ることで、常に組織として取り組むことができた。その結果として落ち着いた学校生活につながっている。96%の児童が学校の決まりを守っていると答えている。 ○自分には良いところがあると思う児童 86%、将来の夢を持っているのも 92%であり、肯定的にとらえている。残りの 14% (16 名)、7% (8 名) の児童を丁寧に見ていく。

健康（体育）・安全	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせるとともに、様々な取り組みを通じて我慢強く活動する心を育てる。</li> <li>2 安全な生活を営むための対応力を育成する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 体育の時間の工夫で運動の楽しさを知らせ、朝マラソンや縄跳び、マラソン大会などの取組を通じて我慢強く取り組む心を育成する。</li> <li>2 安全な遊び方や廊下歩行を意識させて生活できるように取り組む。</li> </ol>	<p>○△様々な取組を通じて、体を動かすことの楽しさを体験できている。我慢強く取り組む心の育成も進めてきているが、家庭との丁寧な連携の上の取組が更に必要である。</p> <p>○△全体的には安全に気をつけ、落ち着いて生活できている。ただし、廊下は歩いていると 80% の児童が答えているものの、そう思うと自信をもって答えているのは 21% であり、その児童を増やす必要がある。</p>
小中一貫教育の推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保幼小中 10 年間を見通した教育活動についての手段としての「小中一貫教育」の意図を理解する。</li> <li>2 互いの文化や活動の特色を理解し、自校の取組とつなげる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 久美浜学園の各事業を進めるにあたり、校内での議論を通じて小中一貫教育の意図や意味を理解する。</li> <li>2 久美浜学園内の保育所、こども園、小中学校の取組に積極的に参加し様子を知るとともに、肯定的に理解するように論議する。</li> </ol>	<p>○各事業を積極的に進め、小中一貫教育の目指すことや意義は大いに理解できてきた。</p> <p>△保育所・幼稚園・小中学校それぞれの文化や指導観の違いをなかなか乗り越えることができていない。今後も追及していく課題である。</p>
特別支援教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 一人一人の個性や特性を理解し、「共に生きる」ことをすべての教育活動において意識する。</li> <li>2 個のニーズに応じた指導を集団の中で取り組むことを目指す。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 すべての児童の個性や特性について把握しようと努める。</li> <li>2 個別の指導計画や教育支援計画を改善していく。</li> <li>3 落ち着いた学習環境を整える。</li> <li>4 ユニバーサルデザインを意識した授業を進める。</li> </ol>	<p>○一人一人の個性や特性を丁寧に見ていこうとすることは学校として大切にすることができた。</p> <p>○特に顕著な様子を見せる児童に対してはチームを作つて丁寧に検討し対応することで、より良い方向に進めることができてきている。</p> <p>△誰にとっても有効な指導方法を研究し進めているが、今後も引き続き研究が必要である。</p>
研修（資質向上の取組）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 すべての教育活動の基盤として安心して学べる学級となる人間関係づくりの指導方法を発達年齢に応じて身につける。</li> <li>2 使命と責任を自覚し、豊かな人間性と広い社会性、高い専門性を目指した研修を進める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 校内研修の充実を図るとともに、日々の働きかけの中での学び合いを進める。</li> <li>2 久美浜学園の研究テーマ【言語活動の充実】とリンクさせ、算数科を通して活用力を高める授業研究を進める。</li> <li>3 学級づくりの考え方や取り組み方について、様々な機会を通じて研修を進める。</li> </ol>	<p>○学園の研究テーマ「言語活動の充実」について、年間を通じて授業研究をし、共通理解を図ることができた。日々の授業づくりや学級づくりに生かすことができてきている。</p> <p>△今求められている多種多様な研修内容に対して、なかなか対応できていない。一人一人の経験とニーズに応じた研修が少しでも進められるようにしていく。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 今年度同様、「チーム久美小」の意識を大切にし、コミュニケーションを更にとりながら、議論していく中でより良い指導方法を作り上げていく。</li> <li>2 一年間を見通し、焦点化とバランスの取れた教育課程の編成を進める。その結果として、総勤務時間の縮減に努めるとともに、児童にじっくりと対応できる教育活動を推進する。</li> <li>3 子どもの成長を保護者とともに確認することを通して信頼を得、そのことで更に教育活動を高めていくサイクルを意識する。</li> </ol>		

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立高龍小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「意欲的な児童の育成」 1 3年目の学校課題を整理し解決する。 2 組織的対応のための校内委員会と教育相談等の充実 3 地域と連携した教育活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「2年目の挑戦」を目標として、児童のがんばりを一つにまとめられるようにまた、教員の思いも同方向に一体化出来るよう、学期ごとに方向を示した。それにより、目標を明確にして取り組む事ができた。</li> <li>・支援を要する児童への日々の丁寧で個に応じた指導と、保護者への連絡体制について課題が残った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で思考をくぐらせる場面を入れ、基礎・基本の力の充実と共に自分の考えを持ち、表現できる力を育てる。</li> <li>・改善方策をもった三者会運営と、組織的な教育活動の推進により教員の資質向上につなげる。</li> </ul>
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 方 策	成 果 と 課 題 (自己評価)
教育課程学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的・基本的な知識技能の習得</li> <li>○授業の中で思考をくぐらせる場面の挿入</li> <li>○学力テスト分析や算数科における各学年のテストの誤答研究</li> <li>・学びの基礎を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点の算数では形成テストを作成し、ゴールを見定めた上で指導を行う。プレテストを実施し、課題把握と課題解決に向けた個別支援を実施する。(加配教員の丁寧な支援)</li> <li>・反復学習を各学年で継続し、つけるべき学力を習得させる。また、活用できるよう次の段階を考え学ばせる。</li> <li>・昨年度確認してきた「高龍小これだけは」を授業で取り入れ、目標がはっきりした授業をつくりあげる。</li> <li>・思考・表現・学び合いの場面を単元を通して取り入れ、意欲的に学習に取り組める工夫をする。</li> <li>・誤答整理と分析を行い、間違いの傾向をつかみ徹底して指導に取り入れる。</li> <li>・家庭学習の内容充実と自主的な学習の進め方の確認を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業のめあて設定をはっきりさせたこと、振り返りを入れたことで、自分の学ぶべきことはっきり理解させて授業に参加させることができた。また、課題把握が困難な児童への個に応じた指導や、加配教員の働きかけも丁寧に行い、授業の楽しさ、わかりやすさを児童が体験し学ぶ中で、発表など自信をもって取り組めるようになってきた。</li> <li>○「自分で考える」「表現する」について全学級での取組が繰り返されることで、自分の思いを多様に考えることができる児童が出てきた。</li> <li>○「学期末テスト（漢字・計算）8割以上を！」を合言葉に自主勉強に取り組ませ、基礎定着に向けた学びを入れることで意欲的な学習につながった。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個を大切にし、個性を集団の中で生かせる力を付けるとともに、お互いに気持ちの良い言語生活を送る。</li> <li>○日々の問題行動への対処は組織的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもとのコミュニケーションを丁寧に行い、気持ちの良い言葉・姿勢での指導を行い、「心の声」を聞けるよう努める。</li> <li>・意欲を持って粘り強く最後まで力を出せる児童を育成するために、「協力し挑戦」する場をつくる。</li> <li>・問題行動に関して事実を正確に把握し、生徒指導部を中心とした組織的な指導を行う。また、保護者からの悩みなどの相談については丁寧に対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもに寄り添う思いを持っての聞き取り法で、未解決課題を解決することが増えた。心に寄り添って聞く指導ができる学校体制が大きく育った。</li> <li>○「心と体部」として生指・特活・人権・保健がタッグを組み、組織を通して話し合い、方針を出し一致して課題に対応することができた。提案後は他の教員の協力が入り全体の思いが一致した指導ができた。</li> </ul>

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○命の大切さを伝える</li> <li>○健康な体づくりを推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下校見守りは学校全体で取組を行う。また、地域連携による登下校の見守り隊をさらに充実させる。</li> <li>・学園での学習・生活リズムの点検活動を実施し、家庭生活の様子をつかむとともに、児童・保護者への指導に活かす。（2部会での話し合い）</li> <li>・除去食児童対応に対する保護者との打ち合わせを、定期的に実施し、他児童の給食と交わらないように徹底する。</li> <li>・危険回避能力を身に付けさせる（安全教室・避難訓練など）訓練を行い、その大切さについて指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○下校指導について登校と同様に職員も輪番で行うことができ、当番を週案にきちんと入れたことで、パトロールを充実させることができた。高龍児見守り隊と共に、児童を見守り、安全に下校させることができた。</li> <li>○体力・運動能力向上指定校を受けたことで、体力作りの内容を大きく変化させた。体力作りの時間を嫌がっていた児童が楽しく運動できるようになった。</li> <li>△給食委員会・保健衛生委員会を組織する必要がある。（給食費の見通し・インフルエンザ蔓延による）</li> </ul>
小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○久美浜学園のめあてを重視し、児童課題を特色を生かした構想を立て、実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営・運営・学力充実等各部会の連携を密にし、課題を明らかにし、解決に向けて具体的な計画・実践・評価の動きをつくり上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年目の取組で、保幼小中の交流を通して理解が進んだ。組織の見直しや学力向上に向けた課題の共有など、今後の学園組織での交流や課題解決に向けた取組課題が明確になった。</li> <li>○コーディネーターが度々学校訪問し、様々な取組の写真を撮りHPにアップしたこと、総会ではDVDで取組紹介を行ったことなどは、保護者に喜ばれた。</li> </ul>
特別支援教委育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実態把握による支援体制の充実を行う。</li> <li>○校内委員会の設置と継続的な配慮を要する児童の指導と観察を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級担任や通級指導担当の専門的視点での配慮を要する児童への気付きについて、定期的・継続的に交流する場を設定すると共に、その視点を大切にした指導・支援方策を全体で学び、学級での支援計画につなげ実践させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内委員会を中心に配慮を要する児童について定期的に継続的に話し合い、方針を確立できた。日々の気づき、対策を実施すると共に保護者との話し合いも継続し、現状からの一歩先を考え実践することができた。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の魅力を探り、フィールドワーク等をとおして、故郷を知り理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3地区それぞれの地域の魅力について、歴史を学び、地域での体験・活動の実施により、高龍地域の一人としての自覚を高める活動を作り上げる。</li> <li>・地域の方々、講師になっていただいた方々の学びをまとめ、発信することで郷土愛を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高龍地域の歴史と自然や施設に触れる各学年の取組は、学びと実際の訪問見学を通して児童の心に残せた。地域の講師とのふれあいを喜び楽しんで学ぶ姿を、学年ごとに多く見ることができた。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 学力充実の取組…児童に一番つけていかなければならないのは「聞く力」である。ゆえに、しっかり聞かせ理解させる授業の組み立て、自力解決から交流・説明、適応題による学びまで終了する授業の創造に向け、教員一人一人の指導法改善について取り組む。</li> <li>② 学級経営の充実…児童自身学級にいることで落ち着く、安心するなど心の安定の場は大事である。しかし、児童の落ち着きは日により時間により変化があるため、担任はその思いを受け取りつつ全体を見ていく力を持たねばならない。児童一人一人の声が大事にされ、授業や遊びを通して困難なことにもみんなで取り組める学級経営を目指す。</li> <li>③ 話し合い活動…お互いを理解させたり物事を成功させたりするために、話し合いの手順や方法を学ばせる。学習や学級会、児童会や行事を通して様々な場面で、意欲をもって自治的能力が高まるような活動を仕組み、達成感を味わわせる。</li> </ol>		

## 平成28年度学校評価自己評価報告

学校名〔京丹後市立かぶと山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<b>久美浜学園教育目標</b> ふるさとを愛し、 意欲的に学び、やさしい心をもち、 根気強く努力する子どもの育成 <b>目指す児童像</b> (知) 意欲的に、質の高い学力を身につけようとする子 (徳) 自ら正しく判断 行動し、豊かな心をもつ子 (体) 心身を鍛え、粘り強く最後まで 協力して取り組む子		<p>○課題解決型の授業づくりに取り組み、指導力の向上を図ることができた。</p> <p>○Q-Uの実施分析を活用し配慮児童への関わり等、安定した学級経営を行うことができた。</p> <p>○特別支援教育指導員やスクールサポータ等を有効に活用することで特別支援教育の充実を図ることができた。</p> <p>△学力の向上に向けた、年間を通した計画的、継続的な取組に弱さがあった。</p>	<b>目指す学校の姿</b> (1) 居心地のよい学校 安心と安定のある学級経営の充実 望ましい人間関係を築く力の育成 (2) 学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力(活用)を充実させる学習活動の推進 (3) 家庭・地域にひらくれ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程 学習指導	児童一人一人に基礎・基本や表現力、学習意欲などの「質の高い学力」を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学力実態の把握と分析に基づき、課題を明確にした学習活動の充実を図る。</li> <li>・研究推進部、学力充実部からの提起を受け、ことばの力の育成に向けた指導の充実を目指した授業に取り組む。</li> <li>・朝読書、昼ドリル、放課後補習の取組を定着させ機能化を図る。</li> <li>・図書館教育の取組を充実させ、読書活動の推進による、言語に着目した取組を進める。</li> <li>・家庭との連携を密にし、学習習慣及び生活習慣の確立に向けて取り組む。</li> </ul>	<p>○全国・府の診断テストの実施により学力実態の把握に努めた。年間を通した学級での指導により、年度末の診断テストではどの学年も全国平均を上回る結果を得ることができた。</p> <p>○重点研究で算数科の指導方法改善に取り組んだ。授業の中で言語活動の充実に向け研究を深めることができた。</p> <p>○昼ドリルでは算数の学習プリントに計画的に取り組み、学力の定着につなげることができた。</p> <p>△読書活動については、保護者からのアンケートでも子どもの読書の実態は不十分との回答が多くあった。朝読書の充実とともに家庭での読書にもつながるように取り組んでいく。</p>
生徒指導	安心と安定のある学級経営の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の三つの機能(自己決定の場、自己存在感、共感的人間関係)を活かした学級経営の推進により、深い信頼関係に基づく人間関係を育成する。</li> <li>・ユニバーサルデザインを取り入れた学級経営に取り組む。</li> <li>・日々の肯定的評価の積み上げにより、お互いの良さやがんばりを認め合える集団づくりを進める。</li> <li>・年3回、学級の様子を測るアンケートを実施・分析し、児童の学級における状況を的確に把握し、いじめや暴力、不登校の未然防止や改善に役立てる。</li> </ul>	<p>○安定した学級経営に向け、関わり方や声のかけ方が穏やかなものとなるよう取り組んできた。とりわけ、肯定的な評価に心がけることで落ちついた生活を送ることができるようになってきた。</p> <p>○校内で発生した事象については関わった者の毅然とした対応と保護者への丁寧な報告に心がけ、大きなトラブルへの発展はなかった。</p> <p>○学級の様子を測るアンケートやいじめアンケート等の実施により実態把握に努め適切な対応も行うことができた。</p> <p>△引き続き生徒指導の三つの機能を活かした学級経営の推進に取り組んでいく。</p>

健康（体育）・安全	元気で規則正しい生活ができ、健康で安全な生活を送ることができる児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の体力づくりを年間を通して計画的に実施する。</li> <li>・基本的な生活習慣の確立に向けた取組を、家庭と連携しながら進める。（全員登校の日数を昨年より多くする）</li> <li>・登下校の安全に対して安全ボランティアの方々と連携した取組を進める。（付添登下校、にこにこカーによる見回り、毎月の登校指導等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○春と秋の朝マラソンの実施、大縄大会に向けた休み時間を利用した体力づくりを進めることができた。</li> <li>○学期の初めを中心に生活習慣を見直す期間を設定し、規則正しい生活となるよう働きかけを行うことができた。全員登校の日数も昨年に比べ増加した。</li> <li>○日々の登下校の安全に安全ボランティアの方々の協力を得ながら取り組むことができた。</li> <li>△ねんざや骨折などの学校事故件数の減少に取り組む必要がある。</li> </ul>
小中一貫教育の推進	久美浜学園の一員として、学園経営方針に沿いながら教育課題の改善に向けて取り組む。 ・確かな学力の育成 ・コミュニケーション能力の育成 ・評価を見通した取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園共通の教育目標、目指す児童像及び共通指導事項の達成に向けた取組を進める。</li> <li>・小中一貫教育を進めるための、小中連携及び小小連携の取組の意義を理解し意識的に参加する。</li> <li>・小ースタートカリキュラムの実施、モデルカリキュラムの自校化に向けた取組を進める。</li> <li>・評価方法について研修を通して理解を深めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小中一貫教育本格実施の一年目として、学園内の小中学校及び保育所園との連携・交流が一層進んだ。</li> <li>○久美浜学園経営会議において課題の確認と解決に向けた取組について協議し、とりわけ、共通の目標の達成に向けた取組を進めることができた。</li> <li>△小中学校を通して付けたい力の確認やそれに向けた取組内容をさらに進めていく。</li> </ul>
特別支援教育	校内サポート体制の確立を図り、配慮を要する児童を中心に全ての児童に対して合理的な配慮に心がける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育指導員の効果的、計画的な活用を図る。また状況に応じて柔軟な対応ができることも大切にする。</li> <li>・サポート会（低、中、高）を毎月1回持ち、情報交流、分析をして手立てを考える。</li> <li>・より専門性の高い機関と連携をとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○配慮を要する児童の交流を丁寧に行い、教職員間で児童理解を進めることができた。</li> <li>○中学校SC、市の臨床心理士、巡回相談等の連携活用により、児童理解が進み、適切な対応に心がけることができた。</li> <li>△定期的に部会を開催することで児童の実態把握に努める。</li> </ul>
開かれた学校づくり	学校の情報を積極的に発信し、教育活動の向上と信頼される学校づくりにつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な授業参観や行事への参観、日常的な家庭訪問や電話等を使っての連絡を実施する。</li> <li>・学校や児童の様子等、学校・学級だよりやホームページ等を活用し、積極的、具体的に情報発信し理解を得る。</li> <li>・学校評価、保護者アンケート等を活用し、学校改善に生かす。</li> <li>・地域人材や学校支援ボランティアを積極的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行事や取組の参観や学校便り、学級通信等を通して学校の様子を知ってもらう機会をつくることができた。</li> <li>△保護者アンケートの結果を分析、精査し学校改善につなげていくヒントとして有効に活用していく。</li> <li>△取組に対する学校としてのねらいや考え方方が的確に保護者に伝わっていないことが感じられた。ねらいや学校としての考えを理解してもらえるように伝え方など工夫していく。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学力の向上に向けた研究活動の活性化</li> <li>・安定した学級経営の実現に向け、生徒指導の三つの機能を踏まえた指導の継続</li> <li>・特別活動（チーム活動）を中心として児童の豊かな人間関係づくりを目指す取組の推進</li> <li>・個に応じた児童への支援のあり方を進めていくための特別支援教育の充実</li> <li>・言語能力の育成につながる日々の読書活動の取組</li> </ul>		